

平成 24 年 度

事業報告書

自 平成 24 年 4 月 1 日

至 平成 25 年 3 月 31 日

公益財団法人 ブルーシー・アンド・グリーンランド財団

目 次

I. 海洋センター所在市町村の概要	1
II. 法人の概況	2
1. 設立年月日	2
2. 定款に定める目的	2
3. 定款に定める事業内容	2
4. 所在地	2
5. 基本財産の額	2
6. 基金の増設	2
7. 行政庁	2
8. 役員に関する事項	2
9. 職員に関する事項	2
III. 管理業務	3
1. 役員及び評議員	3
2. 専門委員	3
3. 会議	3
4. 事務局	5
IV. 事業の実施状況	
公益目的事業	
【1】青少年の健全育成に関する事業	6
1. 自然体験・環境教育活動	6
2. 大会・交流活動	22
3. 助成・活動支援	28
【2】幼児から高齢者までの心身の健康づくりに関する事業	36
1. 幼児の心身の健康づくりを目指した運動プログラムの普及	36
2. 中高年の生活習慣病予防を目指した運動プログラムの提供	37
3. 高齢者の健康づくりを目指した運動プログラムの普及	37
【3】指導者の養成に関する事業	38
1. 指導者養成	38
2. 指導者研修	41
3. B&G人材バンク	44
【4】ネットワーク構築と調査研究等事業	46
1. ネットワーク構築	46
2. 調査研究等の活動	55
3. 広報活動	55
収益事業	
1. 土地賃貸事業	59

I. 海洋センター所在市町村の概要

(海洋センター所在市町村の数)

平成 24 年度は自治体の財政状況悪化、施設の老朽化などを理由に 1 センター（埼玉県川島町）を廃止した。

平成 25 年 3 月末日現在、海洋センター所在市町村数は 218 市、161 町、13 村で 392 ヲ所、海洋センター数は 474 ヲ所となった。

(海洋センターの活動状況)

海洋センターでは、指導者適正配置や、効率的な管理・運営が実施されるとともに、財団ソフト事業の積極的活用が図られている。

平成 24 年度の海洋センターの利用者数は、前年度比約 6 万人増の年間 1,029 万人であった。

(海洋センターの現状) ※平成 24 年度評価結果

海洋センターの運営状況（施設の管理、指導者の配置、事業の実施、利用者の状況、会議への出席など）をもとに、平成 15 年から実施している「海洋センター評価」について、平成 24 年度は運営が良好な評価 B 以上の海洋センターは、昨年と同様に全体の 89.5%となった。

自治体の理解促進、安全管理者としての指導者の適正配置が図られ、運営状況が改善された。

(東日本大震災への対応)

福島県本宮市白沢海洋センターに対し、13,900,000 円を災害復旧修繕として助成した。

福島県本宮市白沢海洋センターは平成 23 年に発生した「東日本大震災」による原発事故の影響で、屋外での活動が制限されている子供たちの水泳授業を海洋センターで受け入れている、

なお、甚大な被害を受けた海洋センター施設については、現在、各自治体で国の補助等を含めて復興計画を策定しており、施設再建への支援は自治体との協議を進めながら検討していく。

II. 法人の概況

1. 設立年月日 昭和 48 年 3 月 28 日

「公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律」の施行に伴い、平成 24 年 3 月 21 日付で内閣総理大臣より公益財団法人への移行認定を受け、平成 24 年 4 月 1 日付で公益財団法人となった。

2. 定款に定める目的

この法人は、わが国の青い海と緑の大地を実践の場とし、主として海洋性レクリエーション事業を軸とした青少年の健全育成、身体活動を通じた幼児から高齢者までの心身の健康づくり、水の安全教育と海事知識並びに環境保全の普及・啓発等、公益の増進を図る事業の振興に寄与し、海洋国日本の発展に資することを目的とする。

3. 定款に定める事業内容

- (1) 青少年の健全育成に関する事業
- (2) 幼児から高齢者までの心身の健康づくりに関する事業
- (3) 水の安全教育と海事知識の普及・啓発に関する事業
- (4) 国際交流と環境保全を推進する事業
- (5) 指導者養成に関する事業
- (6) その他この法人の目的を達成するために必要な事業

4. 所在地 東京都港区虎ノ門 3-4-10 (虎ノ門 35 森ビル 9F)

5. 基本財産の額 (円)

取得価額	時価評価額	差異
6,560,000,000	6,915,545,400	355,545,400

時価評価額については、3 月 31 日現在の有価証券の評価益を含んだ額である。

6. 施設等整備準備金の増設

平成 25 年 3 月 29 日付で、施設等整備準備金に 500,000,000 円の基金を増設した。

7. 行政庁 内閣府

8. 役員に関する事項

Ⅲ. 管理業務の 1. 役員 (理事・監事) 及び評議員の選任を参照

9. 職員に関する事項

Ⅲ. 管理業務の 4. 事務局を参照

Ⅲ. 管理業務

1. 役員（理事・監事）及び評議員については、次のとおりである。

（1）役員

平成 25 年 3 月 31 日現在の役員は、別表 1「役員名簿」（60 頁）のとおり、理事 10 名（会長 1 名、理事長 1 名、常務理事 3 名、理事 5 名）、監事 2 名である。

平成 24 年度における役員の異動は次のとおりである。

○平成 24 年 4 月 1 日付で公益財団法人への移行に伴い、定款（平成 24 年 4 月 1 日施行）の定めにより、最初の理事 10 名（梶田 功氏、広渡 英治氏、大島 康雄氏、古山 透氏、吉田 哲朗氏、重 由美子氏、高良 文雄氏、中村 真衣氏、船越 眞氏、山中 健氏）、監事 2 名（篠原 通夫氏、西本 克己氏）が就任した。

また、代表理事、業務執行理事は下記のとおりである。

代表理事	会長	梶田 功
代表理事	理事長	広渡 英治
業務執行理事	常務理事	大島 康雄
業務執行理事	常務理事	古山 透
業務執行理事	常務理事	吉田 哲朗

（2）評議員

平成 25 年 3 月 31 日現在における評議員は、別表 2「評議員名簿」（61 頁）のとおり、10 名である。平成 24 年度における評議員の異動は次のとおりである。

○公益財団法人への移行に伴い平成 24 年 4 月 1 日付で評議員 10 名（遠藤 容弘氏、岸 ユキ氏、工藤 祐直氏、小高 幹雄氏、小峯 力氏、今 義男氏、谷川 真理氏、西嶋 泰義氏、皆川 浩二氏、吉田 和夫氏）が就任した。

2. 専門委員（海洋センター施設整備委員）

平成 25 年 3 月 31 日現在における専門委員は、別表 3「専門委員名簿」（62 頁）のとおり 7 名（宇井 成一氏、大西 英輔氏、小池 保夫氏、小林 元一氏、田久保 雅己氏、田畑 誠一氏、広瀬 秀貴氏）である。

3. 会議

（1）理事会

第 1 回理事会

ア. 時 期：平成 24 年 5 月 29 日（火）午後 4 時 00 分

イ. 場 所：虎ノ門 35 森ビル 9 階 B & G 財団会議室

ウ. 議決事項：

第 1 号議案 平成 23 年度 事業報告書の承認に関する件

第 2 号議案 平成 23 年度 決算書の承認に関する件

第 3 号議案 海洋センターの廃止に関する件

第 4 号議案 第 1 回評議員会招集に関する件

第2回理事会

ア. 時 期：平成24年10月1日（月） 午後4時00分

イ. 場 所：虎ノ門35森ビル9階 B&G財団会議室

ウ. 議決事項：

第1号議案 平成25年度日本財団助成申請事業の承認に関する件

第2号議案 第2回評議員会招集に関する件

第3回理事会

ア. 時 期：平成25年2月22日（金）午前11時00分

イ. 場 所：虎ノ門35森ビル9階 B&G財団会議室

ウ. 議決事項：

第1号議案 平成25年度事業計画および収支予算の承認に関する件

第2号議案 諸規程の一部改正に関する件

第3号議案 第3回評議員会招集に関する件

(2) 評議員会

第1回評議員会

ア. 時 期：平成24年6月15日（金）午後3時30分

イ. 場 所：虎ノ門35森ビル9階 B&G財団会議室

ウ. 審議事項：

第1号議案 議長の選出に関する件

第2号議案 平成23年度事業報告書の承認に関する件

第3号議案 平成23年度決算書の承認に関する件

第4号議案 海洋センターの廃止に関する件

第5号議案 役員及び評議員の報酬並びに費用に関する規程の一部改正に関する件

第2回評議員会

ア. 時 期：平成24年10月12日（金）午後4時00分

イ. 場 所：虎ノ門35森ビル9階 B&G財団会議室

ウ. 審議事項：

第1号議案 平成25年度日本財団助成申請事業の承認に関する件

第3回評議員会

ア. 時 期：平成25年2月28日（木）午前11時00分

イ. 場 所：虎ノ門35森ビル9階 B&G財団会議室

ウ. 審議事項：

第1号議案 平成25年度事業計画および収支予算の承認に関する件

第2号議案 諸規程の一部改正に関する件

(3) 専門委員会（海洋センター施設整備委員会）

①第14回海洋センター施設整備委員会

ア. 時 期：平成24年5月18日（金）

小池委員長より、書面表決による答申書が提出された。

イ. 諮問事項：

第1号議案 平成24年度「災害復旧修繕助成」に関する件（福島県本宮市白沢）

第2号議案 地域海洋センターの廃止に関する件（埼玉県川島町）

第15回海洋センター施設整備委員会

ア. 時 期：平成24年9月19日（水）午後15時30分

イ. 場 所：虎ノ門35森ビル9階 B&G財団会議室

ウ. 諮問事項：

第1号議案 平成25年度「修繕助成」に関する件

第2号議案 「東日本大震災」施設復旧に対する災害復旧修繕に関する件

第3号議案 洋野町種市海洋センターの災害復旧修繕に関する件

4. 事務局

(1) 機構

平成25年3月31日現在における事務局の機構は、別表4（63頁）のとおり、5部9課である。

(2) 人員

平成24年度内における職員退職は5人（内定年退職1人）、契約職員退職は1人であった。また、定年退職者を契約職員として再雇用、契約職員4人を職員採用した。

平成25年3月31日現在における職員は29人、契約職員は2人である。

IV. 事業の実施状況

【公益目的事業】

【1】青少年の健全育成に関する事業

1. 自然体験・環境教育活動

(1) B & G 「体験クルーズ」 日本財団助成事業

「子どもたちに笑顔を～日本元気復活事業～」として、航海や海洋性レクリエーションなどの海洋体験学習を通して、安全に水と親しみ、その環境を理解し保護する心を育てるとともに、ルールやマナー・礼節・協調性などの社会性を学び、豊かな人間形成を図ることを目的に実施した。

ア. 時 期：平成 25 年 3 月 25 日（月）～3 月 30 日（土） 5 泊 6 日（船内泊）

イ. 場所（寄港地）：小笠原諸島父島（東京都小笠原村）

ウ. 参加人数：488 名（全国の小学 4 年生～中学 3 年生）

※内、東日本大震災の被災地児童 14 名を招待した。（仙台または盛岡駅の往復費用と参加費免除）

※内、小笠原村の児童 12 名、B & G ブロックスポーツ大会優秀選手 25 名、および「水に賢い子どもを育む年間型活動プログラム」導入小学校児童 8 名の計 59 名を招待した。（参加費免除）

エ. 内 容：船内で「海」「船」「自然」に関する学習を行い、寄港地では小笠原村の児童 12 名が合流し、カヌーやスノーケリングなどの海洋性レクリエーション活動および自然体験活動等を実施した。また「東日本大震災復興祈念植樹」を実施した。

オ. 後 援：内閣府、文部科学省、国土交通省、東京都、一般社団法人共同通信社、ウォーターセーフティー ニッポン

カ. 協 賛：大塚製薬株式会社

キ. 講 師：総合子供の遊び研究室 代表 東 正樹

特定非営利活動法人オーシャンファミリー海洋自然体験センター

代表理事 海野 義明

株式会社自然教育研究センター 取締役 古瀬 浩史

特定非営利活動法人日本ライフセービング協会 泉田 昌美、草柳 尚志

ク. スタッフ協力：

ボートレース関連団体 5 名、B & G 指導員 12 名、20 歳以上の成人ボランティア 12 名、本事業参加経験のある 16 歳～19 歳のボランティア 12 名

ケ. 同行取材：BS-TBS、産経新聞、舵社

(2) B & G 「海洋体験セミナー」「親子ふれあい体験セミナー」 日本財団助成事業

「子どもたちに笑顔を～日本元気復活事業～」として、海洋性レクリエーションなどの海洋体験学習を通して、安全に水と親しみ、その環境を理解し保護する心を育てるとともに、ルールやマナー・礼節・協調性などの社会性を学び、豊かな人間形成を図ることを目的に実施した。

- ア. 時 期：平成 24 年 7 月 25 日（水）～8 月 21 日（火）の間に 5 行程
- イ. 場 所：沖縄県 本部町 B & G 海洋センター（マリンピアザオキナワ）および
本島中北部地区
- ウ. 参加人数：「海洋体験セミナー」小学 5 年生～中学 3 年生の男女／計 343 名
「親子ふれあい体験セミナー」小学 3～6 年生とその保護者／15 組 31 名
- エ. 内 容：カヌーやヨット、スノーケリングなどの海洋性レクリエーション活動や、
マングローブ林観察などの自然体験活動ほか、沖縄文化体験や環境学習等
を実施した。また「東日本大震災復興祈念植樹」として、マングローブを
植樹した。
- オ. 後 援：文部科学省、国土交通省、沖縄県教育委員会
ウォーターセーフティー ニッポン
- カ. 協 賛：大塚製菓株式会社
- キ. 行程別参加者数等：

行程	時 期	発着空港	参加者
A	平成 24 年 7 月 25 日（水）～29 日（日）	羽田・伊丹・ 高松	76 名
B	平成 24 年 7 月 29 日（日）～8 月 2 日（木）	新千歳・ 中部・福岡	77 名
親子	平成 24 年 8 月 2 日（木）～ 8 月 6 日（月） ※台風の影響により 1 日延長	羽田・那覇	31 名
C	平成 24 年 8 月 7 日（火）～8 月 11 日（土）	旭川・仙台・ 鹿児島	83 名
D	平成 24 年 8 月 17 日（金）～8 月 21 日（火）	羽田・広島・ 伊丹	76 名
合 計			343 名

(3) 親子ふれあいプログラム 日本財団助成事業

親子の絆を深めるため、財団法人 小野田自然塾の協力のもと、指導者の研修および親子対象のキャンプを行った。

野外体験活動「レベルアップ研修会」の開催

キャンプにおけるプログラムの目的や理念の伝え方、全体の指導法について再確認するとともに、事業で活用できるアイテム作りを通して、指導資質の向上を図った。

ア. 時 期：平成 24 年 4 月 23 日（月）～24 日（火）

イ. 場 所：日本財団ビル 2 階 会議室、秋川溪谷 コテージ森林村

ウ. 人 数：10名

エ. 内 容：事業説明、指導用教材の作成、事業の企画・立案、助成金申請方法等
説明

オ. 講 師：講演 財団法人小野田自然塾 理事 原 充男

講義 財団法人小野田自然塾 三輪 浩尉

②「親と子のふれあいキャンプ」の開催支援及び活動補助

各ブロック連絡協議会が開催する「親と子のふれあいキャンプ」に対し職員の派遣等を行った。

また、全国 10 ブロック連絡協議会に対し、活動費として総額 383,886 円の助成を行った。

ブロック	開催日	開催場所	参加者数
北海道	7/7 (土)～7/8 (日)	北海道美幌町	7 組 16 人
	8/9 (火)～8/10 (水)	北海道小平町	5 組 10 人
	8/18 (土)～8/19 (日)	北海道大樹町	3 組 7 人
東北	8/4 (土)～8/5 (日)	宮城県蔵王町	6 組 18 人
	8/7 (火)～8/8 (水)	青森県六戸町	7 組 34 人
	8/18 (土)～8/19 (日)	秋田県能代市	4 組 9 人
関東	8/11 (土)～8/12 (日)	栃木県那須塩原市	6 組 20 人
	10/13 (土)～10/14 (日)	茨城県大子町	6 組 14 人
	11/23 (金)～11/24 (土)	埼玉県松伏町	31 人
北陸	9/8 (土)～9/9 (日)	富山県砺波市	6 組 101 人
	9/29 (土)～9/30 (日)	福井県あわら市	6 組 17 人
	3/9 (土)～3/10 (日)	石川県白山市	23 人
中部	9/8 (土)～8/9 (日)	三重県熊野市	9 組 22 人
	10/6 (土)	三重県菰野町	9 組 21 人
	11/25 (土)	静岡県川根本町	7 組 18 人
近畿	7/14 (土)～7/15 (日)	兵庫県南あわじ市南淡	8 組 19 人
	9/15 (土)～9/16 (日)	兵庫県姫路市家島	6 組 12 人
	10/13 (土)～10/14 (日)	和歌山県串本町	4 組 8 人
中国	8/3 (金)～8/5 (日)	島根県雲南市加茂	10 組 26 人
	9/15 (土)～9/16 (日)	岡山県瀬戸内市長船	2 組 8 人
	9/22 (土)～9/23 (日)	鳥取県日野町	3 組 14 人
四国	8/25 (土)～8/26 (日)	愛媛県松山市	10 組 24 人
	9/1 (土)～9/2 (日)	香川県小豆島町内海	9 組 23 人
	10/27 (土)～10/28 (日)	徳島県海陽町	4 組 20 人
北九州	8/4 (土)～8/5 (日)	長崎県佐世保市	10 組 26 人
	8/25 (土)～8/26 (日)	佐賀県神埼市	3 組 7 人
	10/20 (土)～10/21 (日)	大分県杵築市	5 組 11 人

南九州	7/28 (土) ~7/29 (日)	宮崎県日南市南郷町	6組 36人
	7/28 (土) ~7/29 (日)	熊本県美里町砥用	18組 44人
	3/9 (土) ~3/10 (日)	沖縄県本部町	11組 31人
合 計		190組 670人 (30カ所)	

③「親と子のふれあいキャンプ」の事業周知

財団ホームページ上でスケジュールや開催要項等を掲載し周知を行った。

(4) 水に親しむ活動

安全教育の一環として、レスキューの要素を取り入れた競技や、ヨットの初心者を対象とした各種イベントを開催し、海洋センターの活性化とセーリングの普及を図った。

①B & Gチャレンジレスキュー

- ア. 時 期：平成24年6月1日(金)～8月31日(金)
- イ. 場 所：全国の海洋センタープール等
- ウ. 参加人数：873人(30海洋センター、211チーム)
- エ. 内 容：レスキュー種目を主体とした競技会

②「プールでOPヨット体験会」の開催支援

日本セーリング連盟および日本OP協会と連携して、B & G海洋センター・クラブの主催による小学生・中学生を主な対象とした「プールでOPヨット体験会」に対し、器材及び資料提供等の支援を行った。

- ア. 場所：海洋センタープール13カ所、その他小学校プールなど5カ所
- イ. 人数：555名

	道府県	センター・クラブ名	期 日	参加者数
1	北海道	室蘭市B & G海洋センター	4月23日(月)	25名
2	北海道	名寄市風連B & G海洋センター	5月19日(土)	17名
3	北海道	せたな町B & G海洋センター	6月16日(土)	17名
4	新潟県	長岡市和島B & G海洋センター	8月18日(土)	11名
5	新潟県	長岡市越路B & G海洋センター		
6	富山県	砺波市B & G海洋センター	5月20日(日)・26日(土)	27名
7	富山県	南砺市福野B & G海洋センター	5月30日(水)	24名
8	静岡県	掛川市大須賀B & G海洋センター	8月23日(木)	20名
9	兵庫県	猪名川町B & G海洋センター 協力：B & G伊丹海洋クラブ	4月22日(日)	55名
10	兵庫県	B & G伊丹海洋クラブ	9月9日(日)	60名
11	和歌山県	B & G和歌浦海洋クラブ	6月30日(土)	51名
12	島根県	雲南市加茂B & G海洋センター	9月16日(日)	19名

13	岡山県	瀬戸内市長船B & G海洋センター	6月24日(日)	30名
14	山口県	周防大島町B & G海洋センター	6月23日(土)	40名
15	香川県	高松市国分寺B & G海洋センター	9月16日(日)	12名
16	愛媛県	愛南町御荘B & G海洋センター	5月19日(土)	25名
17	高知県	香美市香北B & G海洋センター	8月8日(水)	18名
18	福岡県	みやま市瀬高B & G海洋センター	7月9日(月)	19名
19	鹿児島県	いちき串木野市串木野B & G海洋センター	6月3日・17日・24日	85名
合 計 (17 海洋センター・2 海洋クラブ)				555名

③第4回「B & Gアクセスディンギーフェスタ in 江の島」の開催

B & G江の島海洋クラブおよびNPO法人セイラビリティー江の島との共催により、ヨット初心者や障がい者を対象に、ユニバーサルデザインのヨット「アクセスディンギー」乗船会と 水辺の安全教室を組み合わせたイベントを実施した。

ア. 時期：平成24年6月30日(土)～7月1日(日)

イ. 場所：江の島ヨットハーバー(神奈川県 藤沢市)

ウ. 人数：109名(大人74名、子供35名 ※うち障がい者7名)

(1日目54名、2日目55名)

④「ウォータースポーツプロジェクト」教室の開催

日本トライアスロン連合、日本ライフセービング協会、B & G財団の3団体連携により、小学生以上を対象とした水泳・カヌー・自転車等の複合スポーツ教室を8カ所にて開催した。

【教室実施一覧】

場所	日程	参加者数
北海道 室蘭市	平成24年8月4日(土)	29名
栃木県 下野市国分寺	平成24年7月14日(土)	25名
石川県 七尾市	平成24年7月14日(土)	19名
滋賀県 高島市今津	平成24年11月4日(日)	14名
鳥取県 伯耆町岸本	平成24年7月22日(日)	18名
徳島県 海陽町海南(徳島県連協)	平成24年10月27日(日)	28名
愛媛県 松山市中島	平成24年7月14日(土)	37名
鹿児島県 天城町	平成24年8月11日(土)	28名
合 計：8センター		198名

(5) 水の安全教育・海事知識の普及 日本財団助成事業

自然体験活動と水の事故を防止する水辺の安全教育を推進し、自分の命は自分で守る知識と技術を身につける水辺の安全教室を通じて、日本の水の事故ゼロを目指す事業を実施した。

①教育活動

ア. 水辺の安全講習会の開催

)WSN水辺の安全講習会 (主催：WSN)

時期：平成24年6月16日(土)

場所：静岡県浜松市(商工会議所福利研修センター及びむらくし海の駅)

参加人数：26名/定員20名

内容：昨年、一昨年と静岡県浜名湖および近隣において大きな水の事故があったため、事故を防ぐ安全対策をテーマとした内容を加え、水辺の安全に役立つ内容として、パートナーの協力をいただき、講義と実技に分けて水辺の安全講習会を実施した。

(講義)

- ・WSN活動報告、ライフセービングの活動から見る事故防止ポイント、気象海象と自然災害に対する安全教育、事故状況と安全対策

(実技)

- ・ボートの曳航の注意点、救命クッションの使い方、スモールボートの取り扱い方、パーソナルウォータークラフトによる救助法

)三重県志摩市教職員対象「防災研修会」(主催：三重県志摩市)

時期：平成24年8月8日(水)午前・午後2回実施

場所：三重県志摩市 志摩B&G海洋センター

参加人数：44名・・・三重県志摩市教職員(幼稚園・小・中学校教諭)

内容：三重県志摩市は海拔15m以下の沿岸地域への小中学校及び幼稚園へライフジャケットを787着配備した。これに伴い、市内全ての小中学校・幼稚園の教職員を対象として、ライフジャケットの効果や必要性の研修会を実施し、講師としてWSNの職員を派遣した。

イ. 海外先進地の安全教育等の活動調査・業務提携

海外先進地の「水の安全教育」や「水難事故防止」への取組みを視察調査し、WSNの運営および活動プログラムに活かすことと、オーストラリアウォーターセーフティ協議会(AWSC)が主催する「水の安全会議」への出席並びにAWSCとWSNとの業務提携のため、オーストラリアを訪問した。

a)時期：平成24年6月2日(土)～8日(金) (業務提携日：6月4日)

b)出張者：広渡英治(WSN代表幹事、B&G財団理事長)、宇井成一(千葉県香取市長)、中村真衣(B&G財団理事)、事務局員3名

ウ. 水の安全教育の推進

)ケーブルテレビでの「水辺の安全教育映像」の放映推進

自治体等が運営しているケーブルテレビ(CATV)を通じて、WSNで制作した

水の安全教育映像「自然災害・津波に対する安全教育」の放映を推進し、津波に対する安全啓発を行った。

a)放映期間：通年

b)依頼先：自治体または自治体から委託されている事業者

c)放映回数：延べ595回

d)放映自治体数：23市町村

北海道枝幸町	長野県白馬村	岡山県鏡野町	愛媛県鬼北町
秋田県由利本荘市	長野県山形村	山口県周防大島町	愛媛県愛南町
新潟県糸魚川市	三重県志摩市	徳島県阿南市	佐賀県太良町
石川県志賀町	兵庫県南あわじ市	徳島県那賀町	佐賀県江北町
石川県七尾市	鳥取県北栄町	徳島県徳島市	長崎県五島市
山梨県南アルプス市	岡山県備前市	愛媛県松山市	

エ. 教材等の配布・貸出

パートナー等が実施する「水辺の安全教室」参加者ならびに「水辺の安全教室」の実施団体、学校等に学習教材および安全器材等の配布・貸出を行った。

また、「水辺の安全教室」実施校に対しては、申請に基づき「水辺の安全教育推進校」の表示証を贈呈した。

)教材等の配布・貸出

時期：通年

対象：「水辺の安全教室」参加者およびパートナー等実施団体、臨海学校等実施小学校

配布教材：水の安全対策「紙芝居」、水辺の安全手帳、安全マニュアル、DVD、横断幕、ポスターなど

貸出器材：ライフジャケット、レスキューチューブ、スローバック、練習用AED、心肺蘇生練習機、レスキューボードなど

配布貸出件数：65団体

)「水辺の安全教育推進校」表示証の交付

交付数：44校（都内12校、地方32校）

オ. 「水辺の安全教室」への講師派遣

B & G財団ならびにB & G関係団体等が主催する事業に対し、各主催者からの要請に基づきWSN職員を講師として派遣し、水の安全活動を行った。

)南九州ブロックB & G指導者講習会

時期：平成24年5月24日（木）

場所：熊本県熊本市

参加人数：50名

内容：WSNの活動及び体験プログラムの内容や指導法について

)積丹町「水の事故ゼロ運動」と巡視船クルーズ

時期：平成24年6月23日（日）

場所：北海道積丹町

参加人数：延べ4,067名

内容：水の事故ゼロ運動の説明と救助の実演

)B&G OP級ヨット大会(東日本大会)

時期：平成24年7月14日(土)・15日(日)

場所：愛知県蒲郡市 海陽ヨットハーバー

参加人数：35名

内容：水の安全紙芝居・ペットボトルを活用した救助・ライフジャケット浮遊体験

)B&G OP級ヨット大会(西日本大会)

時期：平成24年7月15日(日)・16日(月・祝)

場所：大分県別府市 北浜ヨットハーバー

参加人数：25名

内容：水の安全紙芝居・ペットボトルを活用した救助・ライフジャケット浮遊体験

)B&G杯全国少年少女カヌー大会

時期：平成24年7月28日(土)・29日(日)

場所：山梨県 精進湖

参加人数：55名

内容：水の安全紙芝居・ペットボトルを活用した救助・ライフジャケットの正しい着用

)ウォータースポーツプロジェクト(北日本大会)

時期：平成24年7月28日(土)・29日(日)

場所：石川県七尾市

参加人数：130名

内容：水の安全紙芝居・ペットボトルを活用した救助・ライフジャケットの正しい着用

)ウォータースポーツプロジェクト(南日本大会)

時期：平成24年8月11日(土)・12日(日)

場所：鹿児島県天城町

参加人数：104名

内容：水の安全紙芝居・ペットボトルを活用した救助・ライフジャケットの正しい着用、レスキューチューブの使い方 など

)B&G全国ジュニア水泳競技大会

時期：平成24年8月18日(土)

場所：東京辰巳国際水泳場

啓発人数：1,800名

内容：中村真衣氏(シドニーオリンピック競泳銀メダリスト)の協力をいただき、ライフジャケットの正しい着用、落水者へのアプローチの仕方等のデモンストラーションなど

)スポーツフェスティバル in ひがしかぐら

時期：平成24年8月19日(日)

場所：北海道東神楽町

参加人数：60名

内容：中村真衣氏の水泳教室に併せての水辺の安全教室を開催。

ライフジャケットの正しい着用、落水者へのアプローチの仕方等のデモンストラクション

②体験活動

ア. 小学校「水辺の安全教室」の実施および支援

東京都区内の小学校またはPTAなど保護者からの要請を受け、小学校プールを会場として小学生を対象に、カヌー体験などの海洋性レクリエーション活動とライフジャケットの浮き方や落水時の対処法・水の安全紙芝居などの水辺の安全教育活動を組合わせて実施した。

)時 期：平成24年6月～8月 実施日数13日、実施プログラム本数27回

)場 所：都内小学校プール 12校

)参加者：1,123名

)内 容：カヌー体験・水辺の安全学習（浮き身・紙芝居・ロープワーク等）

(単位：人)

	実施日	学校名	学年	種別	参加児童	見学児童	教諭・保護者
1	6/29	中央区月島第三	5年	課外	68	3	6
2	7/2	江東区第一大島	6年	授業	85	5	3
3	7/3	江東区亀高	4年	授業	26	7	13
4	7/9	江東区第二辰巳	6年	授業	82	2	2
5	7/10	中央区月島第三	1～4、6年	課外	297	14	17
6	7/12	中央区月島第二	5年	授業	57	4	4
7	7/17	江東区第二亀戸	5年	課外	50	1	3
8	7/18	江戸川区南篠崎	6年	授業	109	6	4
9	7/19	江戸川区大杉第二	6年	授業	96	10	5
10	7/21	杉並区八成	4～6年	課外	15	0	9
11	7/23	江戸川区清新第二	1～6年	課外	68	0	9
12	8/25	荒川区第七峡田	4～6年	課外	19	0	5
13	8/26	杉並区四宮	4～6年	課外	11	0	8
				計	983	52	88

イ. お台場「水辺の安全教室」の実施

夏休みに入る前に、水遊びの楽しさを体験するとともに、自分の命は自分で守る“自助”の意識と技術を学ぶための「水辺の安全教室」を広く一般の方を対象に東京で実施した。

-)時 期：平成 24 年 7 月 7 日（土）
-)場 所：東京都港区 お台場海浜公園
-)参加者：216 名
-)内 容：カヌー・セールボード体験、救助実演（海上保安庁）、東京湾の生物観察など（パートナー等各協力団体のプログラムを実施）

ウ. 都内水域を活用した「水辺の安全教室」の実施

都内江東区の運河等を使用し、広く一般の方を対象として「水辺の安全教室」を実施した。

-)時 期：平成 24 年 9 月 8 日（土）
-)場 所：東京都江東区旧中川及び中川船番所資料館
-)対 象：36 名／定員 30 名
-)内 容：水辺の安全学習・カヌー体験

エ. 海上保安庁と連携した「水辺の安全教室」の実施

海上保安庁が推進する「ライフジャケット着用」推進事業と連携して、WSN のパートナーである B & G 海洋センター等が実施する「水辺の安全教室」と協力関係を構築した。

i) 時 期：通年

ii) 場 所：B & G 海洋センター所在市町村および東京都内

- ①北海道積丹町「水の事故ゼロ運動」（6/24）・・・巡視艇クルーズ（小樽海上保安部）
- ②東京都港区お台場海浜公園「水辺の安全教室」（7/7）・・・救助実演（東京海上保安部）
- ③山口県周防大島町「親子 3 S キャンプ」（7/14～16）・・・体験乗船・活動（柳井海上保安署）

)対 象：学童等

)内 容：巡視艇乗船、ライフジャケット着用体験・カヌー体験・水辺の安全学習等

③啓発・普及活動事業

ア. 「水の事故ゼロの日」「水の事故ゼロ運動強化期間」の設定

「海開き」となる日が多い 7 月 1 日を「水の事故ゼロの日」と定め、その日から「海の日」（7 月 16 日）までを「水の事故ゼロ運動強化期間」とし、幹事団体やパートナー団体に呼びかけ「水辺の安全活動」の実施を推進した。

)「水の事故ゼロの日」：7 月 1 日

)「水の事故ゼロ運動強化期間」：7 月 1 日～7 月 16 日（海の日）

)周知方法：WSN ホームページ並びに幹事・パートナーのホームページ等

イ. 水の安全標語（スローガン）の募集と表彰

子どもたちへの「水の事故ゼロ運動」の周知と「水の安全」に対する意識付けや注意喚起のため、全国の小学生を対象に「水の事故ゼロ運動」の標語を募集し、表彰を行った。

-)主 催：ウォーターセーフティー ニッポン
-)後 援：一般社団法人 共同通信社、WSN10 幹事団体
-)募集期間：平成 24 年 11 月 15 日～平成 25 年 1 月 31 日
-)対 象：全国の小学生
-)賞 賞：最優秀賞 1 点、優秀賞 3 点以内、佳作 9 点
-)応募総数：2,491 作品
-)審査 賞：第 1 次審査（平成 25 年 2 月 12 日）、第 2 次審査（平成 25 年 2 月 19 日）を経て、最終審査（平成 25 年 2 月 26 日）を行い、各賞を選出した。

【最終審査員名簿】（敬称略順不同）

氏 名	所 属	役 職
植 村 昌 則	一般社団法人 共同通信社	業務局 次長
秋 沢 淳 子	株式会社TBSテレビ	アナウンサー
松 本 浩 司	NHK	解説委員
近 藤 豊 和	産経新聞 東京本社	編集局 編集長
中 村 真 衣	株式会社ジェイエスエス	スイミングアドバイザー
広 渡 英 治	ウォーターセーフティーニッポン	代表幹事
大 島 康 雄	B & G 財団	常務理事

)入選作品：

区分	作 品
	受 賞 者
最優秀賞	ペットボトル あなたの身近な 救助隊！
	北海道美幌町立旭小学校 5 年 須郷 美聖さん
優秀作品 (3 点)	水遊び ライフジャケット 海の服
	愛媛県今治市立吉海小学校 5 年 渡辺 瀬奈さん
	落ち着けば 身近なものに 浮く力
	青森県南部町立名川南小学校 4 年 中村 綺奈さん
	あぶないよ 自然はいつでも そうていがい
佳作作品 (9 点)	栃木県那須烏山市立荒川小学校 4 年 内田 明香里さん
	あんしんと えがおをとどける きゅうめいぐ
	大阪府大阪市立明治小学校 5 年 西村 駿徳さん
	きゅうめいぐ つけて楽しい 水あそび
	岡山県美作市美作北小学校 2 年 上妻 新さん
	声かけて みんなでなくす 水のじこ
	静岡県藤枝市立岡部小学校 2 年 長谷川 未来さん
きめようね かぞくみんなの ひなばしよ	
鹿児島県長島町立伊唐小学校 1 年 福島 美海さん	

佳作作品 (9点)	わすれない つなみといのちの たいせつさ
	秋田県大仙市立神岡小学校 2年 石山 伶偉さん
	わすれない 水のこわさも たのしさも
	岩手県一関市立新沼小学校 5年 菅原 大地さん
	大津波 来ないと決めず 高台へ
	静岡県焼津市立東益津小学校 6年 坂井 未波さん
	「だいじょうぶ！」その気持ちが だいじょうぶ？
	富山県富山市立保内小学校 5年 忠地 伶実さん
	ふだんから 家族で訓練 事故防止
青森県六戸町立大曲小学校 6年 沼畑 朱莉さん	

ウ. 「活動報告会」の開催

幹事団体やパートナー・サポーターの活動状況を広く社会に発信するため、「ウォーターセーフティー ニッポン活動報告会」を開催する予定であったが、3年間の成果報告とするため、当初予定していた時期を変更し、次年度に開催することとした。

エ. 「水の安全教育」推進のための映像の制作

「水の安全教育」を推進するため、指導用映像と合わせて教育用映像「自助と救助」を制作した。今後パートナー等からの要望により、映像を配布し、広く安全啓発に役立てることとする。

)内容

Part 1

- ・天気の急変に備える3つのポイント、落水時の対処、身近な物を使った救助の仕方、ペットボトルでの救助と練習、ライフジャケットの有効性

Part 2

- ・海の危険ポイントと安全対策、川の危険ポイントと安全対策、救助の手順、サヴァイバルスイムの基本、ゴムボートの転覆と対処法

WEB版

- ・レスキューチューブの使い方、ニッパーボードの使い方、カヌーレスキュー

)協力団体

- ・海上保安庁警備救難部救難課マリンレジャー安全推進室、埼玉県警秩父警察署、特定非営利活動法人日本ライフセービング協会、NPO 法人気象キャスターネットワーク、筑波大学、千葉県横芝光町（光B&G海洋センター）

オ. パートナー・サポーターの登録・活動状況について

海・河川・プールなどの水に係わる団体等や企業に対し、パートナー・サポーター登録を推進し、地域での水の安全活動の強化を図った。

)パートナー登録：637団体 (3カ年累計：1,239団体)

)サポーター登録：376人 (3カ年累計：9,259人)

)パートナーによる「水の事故ゼロ運動」の活動状況について

・ B & G 地域海洋センター・海洋クラブによる活動展開

実施箇所数	幼 児	小学生	中学生	高校生	大 人	合計
399 カ所	3,632 人	38,473 人	4,908 人	1,178 人	13,154 人	61,345 人

(6) 学校教育等と連携した水辺での体験プログラムの普及 日本財団助成事業

学校教育等と連携し「水に賢い子どもを育む年間型活動プログラム」（通称「水プロ」）の普及・定着を図るため、研修会の開催や職員派遣等の支援を行った。また、プログラムの指導手法として有効な「インタープリテーション」の指導者を養成した。

①「水プロ」の普及

新たに 5 小学校を「導入校」に認定し、全国 18 小学校において「総合的な学習の時間」等を活用しプログラムを実施した。

「水プロ」導入校

	自治体名	学校名
1	北海道せたな町	瀬棚小学校
2	北海道厚岸町	厚岸小学校（新規）
3	青森県南部町	名久井小学校
4	青森県南部町	名川南小学校（新規）
5	新潟県胎内市	黒川小学校（新規）
6	富山県高岡市	福岡小学校
7	静岡県川根本町	中川根南部小学校（新規）
8	三重県伊賀市	大山田小学校
9	三重県いなべ市	石樽小学校
10	滋賀県高島市	マキノ西小学校
11	島根県出雲市	東小学校
12	山口県周防大島町	沖浦小学校
13	徳島県美波町	由岐小学校
14	愛媛県今治市	吉海小学校
15	愛媛県松山市	中島小学校
16	愛媛県愛南町	平城小学校（新規）
17	高知県津野町	葉山小学校
18	鹿児島県南大隅町	大泊小学校

②「水プロ」研修会の開催

ア. 時 期：平成 24 年 4 月 21 日（土）～22 日（日）

イ. 場 所：日本財団ビル（講義）および葛西臨海公園（実技・実習）

ウ. 参加人数：導入小学校の教諭 11 名および海洋センター指導員 18 名

オ. 内 容：干潟プログラム・生物採取・事例発表・プログラムの展開方法・安全学習・ディスカッションなど

カ. 講 師：株式会社自然教育研究センター 取締役 古瀬 浩史

③「水プロ」普及のためのプログラム提供

「水プロ」で蓄積したプログラムをまとめた「水辺体験ナビ」をデータ化してWEB上で紹介し、希望のあった団体・学校に配布した。

④「水プロ」実施校の活動支援

新規「導入校」および「普及校」の活動を支援するため、外部講師および財団職員を派遣するとともに、授業の視察、学習器材の配備等を行った。

ア. 外部講師および財団職員の派遣

区分	学校名	時期	学年 人数	支援内容
新規 導入校	北海道厚岸町立 厚岸小学校	平成24年 7月13日(金)	4年生 29人	財団職員による着衣泳
	青森県南部町立 名川南小学校	平成25年 2月6日(水)	全学年生 20人	外部講師(海藻おしば協会) による海藻おしば教室
	新潟県胎内市立 黒川小学校	平成24年 9月18日(火)	4年生 31人	財団職員によるカヌー体験
	静岡県川根本町立 中川根南部小学校	平成24年 7月12日(木)	3~6年生 33人	財団職員による着衣泳
		平成24年 10月16日(火)	3・4年生 11人	外部講師(自然教育研究センター) による水辺の生物観察
	愛媛県愛南町立 平城小学校	平成24年 11月30日(金)	5年生 58人	外部講師(自然教育研究センター) による水辺の生物観察
普及校	三重県いなべ市立 阿下喜小学校	平成24年 6月26日(火)	2・4・6年生 79人	財団職員による着衣泳
	岡山県瀬戸内市立 裳掛小学校	平成25年 1月28日(月)	5・6年生 12人	外部講師(海藻おしば協会) による海藻おしば教室
合 計			273人	

※導入を検討する愛媛県久万高原町において、活動場所の視察や担当者のヒアリングを行った。

イ. 財団職員による成果発表会の視察

学校名	時期	学年・人数
島根県出雲市立東小学校	平成 25 年 3 月 6 日 (水)	3 年生 23 人 5 年生 33 人
山口県周防大島町立沖浦小学校	平成 25 年 1 月 19 日 (土)	全学年 23 人
愛媛県松山市立中島小学校	平成 25 年 2 月 26 日 (火)	3・4 年生 28 人
高知県津野町立葉山小学校	平成 25 年 3 月 4 日 (月)	全学年 111 人

ウ. 学習器材等の配備

導入校と連携する 15 海洋センターに対し、生物観察用器材やライフジャケット等を配備したほか、要望のあった教育委員会や小学校にテキストを配布した。

⑤「水辺のインタープリテーション」テキストの配布

インタープリテーションの指導法等を記載したテキスト「海編」「川編」「湖沼・山里編」をデータ化して希望する団体や学校に配布した。

⑥「水辺のインタープリテーション」研修会の開催

B & G 指導者養成研修において、子どもたちへの効果的な環境教育を行う指導手法として「インタープリテーション」の研修会を開催した。

ア. 時 期：平成 24 年 6 月 17 日 (金)

イ. 場 所：沖縄県本部町 B & G 海洋センター (マリンピアザオキナワ)

ウ. 講 師：株式会社自然教育研究センター 取締役 古瀬 浩史

エ. 参加者：79 人 (アドバンス・インストラクター 41 人、アクア・インストラクター 38 人)

(7) 植樹教育事業 日本財団助成事業

どんぐりから苗を育て植樹する「体験型の環境教育」を通じて、自然の役割を学び、環境保全の意識を高めていくことを目的として、育苗と植樹の支援を行った。地域の方々と連携して実施することにより、地域を活性化するとともに、防災林の整備にもつなげた。

①植樹リーダー研修会の開催

地域で育苗・植樹事業を推進する指導者を養成した。

ア. 時 期：平成 24 年 5 月 17 日 (木) ・ 18 日 (金)

イ. 場 所：神奈川県平塚市 社会福祉法人進和学園「しんわルネッサンス」

ウ. 人 数：27 人

エ. 内 容：基調講演、講義、現場実習、事例発表、植樹地見学等

オ. 講 師：宮脇昭氏、林寿則氏、高野義武氏、社会福祉法人進和学園スタッフ等

②植樹事業（育苗）の支援

育苗を実施した海洋センターおよび海洋クラブ 22 ヲ所に対し、事業経費の補助（上限各 10 万円、総額 1,476,000 円）を行うとともに、情報の提供等協力を行った。

No.	道府県	センター・クラブ	区 分	参加のべ人数
1	北海道	苫前町海洋センター	育苗・植樹	27 人
2	岩手県	普代村海洋センター	育苗・植樹	57 人
3	岡山県	美作市作東海洋センター	育苗・植樹	101 人
4	徳島県	徳島市海洋センター	育苗・植樹	100 人
5	北海道	せたな町海洋センター	育苗	28 人
6	福島県	小野町海洋センター	育苗	21 人
7	埼玉県	松伏町海洋センター	育苗	30 人
8	神奈川県	葉山海洋クラブ	育苗	46 人
9	新潟県	胎内市中条海洋センター	育苗	7 人
10	福井県	勝山市海洋センター	育苗	114 人
11	福井県	大野市海洋センター	育苗	201 人
12	三重県	いなべ市大安海洋センター	育苗	96 人
13	滋賀県	長浜市浅井海洋センター	育苗	90 人
14	兵庫県	豊岡市竹野海洋センター	育苗	104 人
15	兵庫県	伊丹海洋クラブ	育苗	126 人
16	鳥取県	鳥取市気高町海洋センター	育苗	72 人
17	広島県	北広島町芸北海洋センター	育苗	30 人
18	徳島県	牟岐町海洋センター	育苗	18 人
19	愛媛県	愛南町御荘海洋センター	育苗	24 人
20	香川県	池田海洋クラブ	育苗	28 人
21	熊本県	湯前町海洋センター	育苗	32 人
22	鹿児島県	与論町海洋センター	育苗	95 人
合 計： 22 ヲ所 1,447 人				

③植樹事業（植樹）の支援

植樹を実施した海洋センター4 ヲ所に対し、事業経費の補助（上限各 50 万円、総額 1,768,023 円）を行うとともに、情報の提供、適正樹種決定のための専門家による植生調査等協力を行った。

No.	道府県	センター・クラブ	植樹日	植樹本数	参加人数
1	北海道	苫前町海洋センター	9月22日	386本	67人
2	岩手県	普代村海洋センター	8月7日	1,880本	242人
3	岡山県	美作市作東海洋センター	3月20日	524本	150人
4	徳島県	徳島市海洋センター	11月25日	600本	120人
合 計： 4カ所 3,390本 579人					

④植樹広報用映像の制作

植樹の趣旨、重要性を解説した映像を制作し、インターネットで公開した。

また、植樹ブログを立ち上げ、育苗・植樹情報を広く提供するとともに、植樹指導者との情報共有を行った。

(8) 「B&Gクリーンフェスティバル」の開催

海洋センター・海洋クラブによる海洋性レクリエーション普及イベントと併せて、日頃の活動水域での清掃やゴミ拾いなどのクリーン活動を推進し、環境保全の意識付を行った。

また、平成 24 年度は、昨年に引き続き、「水辺の安全教室」を重点実施するとともに、海洋センター・海洋クラブの要望に応え、対象期間を通年とした。

ア. 時 期：通年

イ. 人数等：クリーン活動 3,726 名、海レク活動 1,626 名、水の安全教室 6,518 名
合計 11,870 人（71 センター、7 クラブ、2 道府県連絡協議会）

2. 大会・交流活動

(1) B&G全国スポーツ大会

海洋センター・海洋クラブ利用者を対象に、日頃の練習の成果発表と参加者の相互交流を図るため、水泳、カヌー、OPヨットの全国大会を開催した。

①「2012 B&G全国ジュニア水泳競技大会」

小中学生を対象に道府県対抗戦として、種目別、男女別の競技大会を行ったほか、シドニーオリンピック競泳 銀メダリスト 中村 真衣氏による、模範泳法披露並びに水の事故ゼロ運動安全プログラム（ライフジャケットの重要性）を行った。

ア. 時 期：平成 24 年 8 月 18 日（土）※前日 17 日に東京辰巳国際水泳場で交流会を実施

イ. 場 所：東京辰巳国際水泳場

ウ. 人 数：508 名（25 道県連絡協議会から 78 センター）

※「インターネット水泳記録会」の記録上位者男女 6 名を招待

エ. 種目等：年齢区分 A：小学3・4年、B：小学5・6年、C：中学生

競技種目 自由形、背泳ぎ、平泳ぎ、バタフライ、メドレーリレー、フリーリレー

距離 50m、100m、200m（男女別）

オ. 大会結果：

総合順位	1位：兵庫県 2位：埼玉県 3位：栃木県
男子	1位：兵庫県 2位：石川県 3位：滋賀県
女子	1位：埼玉県 2位：栃木県 3位：兵庫県
最優秀選手	阪本 祐也（中1・男子） 三重県大紀町大内山B&Gセンター 日高 雅子（中1・女子） 石川県志賀町富来B&G海洋センター
優秀選手	森田 遥大（小3・男子） 兵庫県上郡町B&G海洋センター 野口 温大（小6・男子） 兵庫県宍粟市波賀B&G海洋センター 中村 海渡（中3・男子） 滋賀県高島市高島B&G海洋センター 猪股 萌々花（小4・女子） 静岡県袋井市袋井B&G海洋センター 森中 優花（小5・女子） 兵庫県上郡町B&G海洋センター 千葉 美捺穂（中2・女子） 埼玉県嵐山町B&G海洋センター
大会記録更新数	個人種目（予選・決勝）11種目11個

②「B&G杯全国少年少女カヌー大会」

日本唯一の「小学生を対象とする日本カヌー連盟公認の全国大会」として開催した。

公益社団法人 日本カヌー連盟と共催して、レース初心者から次代のトップ選手まで参加できる種目別・男女別の競技大会と、カヌーの普及を目的に初心者を対象とするカヌー体験会、B&G職員によるスラローム競技の「ワンポイントレッスン」を実施した。

また併せて、「水の事故ゼロ運動」水辺の安全教室、東日本大震災支援のチャリティ販売と募金活動を実施した。

ア. 時期：平成24年7月28日（土）～7月29日（日）

イ. 場所：精進湖（山梨県 富士河口湖町）

ウ. 人数：122名（21府県 32チーム）

- ・ B&G海洋センター・クラブから12チーム 52名が参加
- ・ カヌー体験会：55名（子供：30名 大人：25名）
- ・ スラローム競技 ワンポイントレッスン：14名（選手のみ）

エ. 競技種目：4年生以下普及艇、5・6年生普及艇、K-1、K-2（各200m）

フラットスラローム

オ. 大会結果：

順位 種目	1 位	2 位	3 位
男子小学4年 生以下普及艇	細島 凜	シントウラーマカス 廣記	山下 颯太
	B & G 香取市小見川海洋クラブ	B&G 穂波海洋クラブ だいぶ支部	B & G かけはし海洋クラブ
男子小学5・ 6年生普及艇	斎藤 康祐	鈴木 遼太郎	竹内 祐太郎
	萌明幼児館カヌークラブ	オーパルカヌーチーム	倉吉市関金 B&G 海洋センター イルカヌークラブ
男子カヤック シングル	稲田 直大	遠藤 環太	森黒 大
	早乙女湖カヌークラブ	オーパルカヌーチーム	府中湖カヌークラブ
男子カヤック ペア	稲田 直大 松崎 巧実	鈴木 遼太郎 遠藤 環太	菱田 圭吾 平井 兵馬
	早乙女湖カヌークラブ	オーパルカヌーチーム	早乙女湖カヌークラブ
女子小学4年 生以下普及艇	村野 由奈	越田 彩華	大戸 章花
	B&G 穂波海洋クラブ だいぶ支部	B & G かけはし海洋クラブ	戸田トウインカヌースポーツ少年団
女子小学5・ 6年生普及艇	近藤 優花	吉本 蒼空	塚本 真美加
	B&G 穂波海洋クラブ だいぶ支部	B & G かけはし海洋クラブ	B&G 穂波海洋クラブ だいぶ支部
女子カヤック シングル	中田 舞絢	柳堀 あいり	本宿 漣
	早乙女湖カヌークラブ	B & G 香取市小見川海洋クラブ	湘南カヌースポーツクラブ
女子カヤック ペア	近藤 優花 塚本真美加	黒川明花 中田 舞絢	本宿 漣 平岩美季菜
	B&G 穂波海洋クラブ だいぶ支部	早乙女湖カヌークラブ	湘南カヌースポーツクラブ
男子フラット スラローム	斎藤 康祐	芥川 隆博	蒔田 遥也
	萌明幼児館カヌークラブ	マホバホンダカヌースクール	湘南カヌースポーツクラブ
女子フラット スラローム	八木 優芽	吉本 蒼空	本宿 漣
	萌明幼児館カヌークラブ	B & G かけはし海洋クラブ	湘南カヌースポーツクラブ

③「B & G OP級ヨット大会」

日本最大級のOP級ヨットレース大会として、初心者から世界選手権大会を目指す上級者まで参加できるクラス別のOP級ヨットレースを開催した。

また併せて、「水の事故ゼロ運動」水辺の安全教室、東日本大震災支援のチャリティ販売と募金活動を実施した。

ア. 「2012B&G OP級ヨット大会 東日本大会」の開催

)時 期：平成24年7月14日(土)～15日(日)

)場 所：愛知県蒲郡市 海陽ヨットハーバー

)人 数：97名(1府9県 21クラブ)

)大会結果：

順位	Aクラス	Bクラス	Cクラス
1位	小木曾 涼(中2・男)	大西 海斗(中2・男)	須田 智也(小4・男)
	江の島ヨットクラブ ジュニア	三重県ヨット連盟 ジュニアヨットクラブ	琵琶湖ジュニアヨットクラブ
2位	倉橋 直暉(小6・男)	山田 大夢(小5・男)	岡田 爽良(小3・男)
	海陽海洋クラブ	海陽海洋クラブ	横浜市民YHJYC
3位	玉山 裕登(中3・男)	須田 英実子(小5・女)	蜂須賀 啓介(小2・男) 伊藤 誠雪(小5・男)
	丸玉セーリングクラブ	琵琶湖ジュニアヨット クラブ	B&Gなごや海洋クラブ 琵琶湖ジュニアヨットクラブ

イ. 「2012B&G OP級ヨット大会 西日本大会」の開催

)時 期：平成24年7月15日(日)～16日(祝)

)場 所：大分県別府市 北浜ヨットハーバー

)人 数：99名(12県 1カ国 16クラブ)

順位	Aクラス	Bクラス	Cクラス
1位	花田 義弘(小6・男)	中川 晃(小5・男)	花田 馨(小2・女)
	光セーリングクラブ	B&G松山海洋クラブ	光セーリングクラブ
2位	下石 熙(中1・男)	水田 隆文(小6・男)	小池 駿耀(小3・男)
	熊本ジュニアヨットクラブ	B&G兵庫ジュニア海洋クラブ	B&G津屋崎海洋クラブ
3位	高原 みすず(中3・女)	上園田心太浪(小3・男)	増田 一樹(小4・男)
	B&G別府海洋クラブ	B&G別府海洋クラブ	B&G高松海洋クラブ

④「全国ウォータースポーツ大会」

日本トライアスロン連合、日本ライフセービング協会、B&G財団の3団体協働事業「ウォータースポーツプロジェクト」の一環として、親子を対象とした、「第3回全国ウォータースポーツ 北日本大会」(ペアマラソン・ペアカヌー・バディレスキュー)を石川県七尾市(能登島)で開催した。

また、鹿児島県天城町(徳之島)において、8月11日(土)・12日(日)の2日間で

「第3回 全国ウォータースポーツ 南日本大会」を開催した。

ア. 第3回全国ウォータースポーツ 北日本大会

-)期 日：平成24年7月28日（土）～29日（日）
-)場 所：石川県七尾市マリパーク海族公園（能登島）
-)人 数：親子48組96人
-)種 目：ペアマラソン、ペアカヌー、バディレスキュー
-)結 果：総合順位

(敬称略)

部 門	1 位	2 位	3 位
低学年	石川県中能登町 定塚 利明・利心	富山県南砺市 大村 貴則・遥隼	富山県氷見市 太田 大介・壱平
高学年	石川県七尾市 中田 誠・瑞菜	石川県白山市 山寺 信昭・和哉	石川県七尾市 横山 伸二・りな

イ. 第3回全国ウォータースポーツ 南日本大会

-)期 日：平成24年8月11日（土）～12日（日）
-)場 所：鹿児島県大島郡天城町 天城クロスカントリーパーク・サンセットビーチ
-)人 数：親子37組74人
-)種 目：ペアマラソン、ペアカヌー、バディレスキュー
-)結 果：総合順位

(敬称略)

部 門	1 位	2 位	3 位
低学年	熊本県湯前町 椎葉 泰裕・陽斗	鹿児島県奄美市 登尾 誠司・ 長谷川蒼大	大分県佐伯市 高橋 和孝・宥人
高学年	熊本県宇城市 沖田 利喜・彩華	鹿児島県天城町 宮田 正行・太陽	鹿児島県天城町 中江 美鈴 優由

(2) 「B&Gドリームキャンプ」の開催

「B&G全国スポーツ大会」(ヨット、カヌー、水泳)の成績優秀者が所属するセンター・クラブ等に、著名な講師を派遣し、選手の競技力、指導者の指導力向上等を図る目的に全4ヵ所で実施した。

①「2012 B&Gドリームキャンプ in 津」の開催

開催地：2012B&G OP級ヨット東日本大会(7月14日・15日)において、Bクラスの優勝者が所属する三重県ヨット連盟ジュニアヨットクラブの活動場所と決定。

期 間：平成24年10月6日(土)・7日(日)2日間

場 所：三重県津市 伊勢湾海洋スポーツセンター(津ヨットハーバー沖)

人 数：16人(クラブ員12人・指導者4人)

指 導：小松 一憲氏(B&G財団テクニカルアドバイザー ロンドンオリンピックヨット競技コーチ)

内 容：スタート指導、方向転換指導等

「2012 B&G ドリームキャンプ in 家島」の開催

開催地：2012 B & G 全国ジュニア水泳競技大会（8月18日）において、総合優勝した兵庫県チームが所属する姫路市家島 B & G 海洋センターを開催場所と決定。

期 間：平成 24 年 10 月 13 日（土）・14 日（日）2 日間

場 所：兵庫県 姫路市家島 B & G 海洋センター（プール）

人 数：48 人（クラブ員 37 人・指導者 11 人）

指 導：中村 真衣氏（JSS スイミングアドバイザー、シドニーオリンピック女子 100m 背泳ぎ 銀メダリスト）

森 隆弘氏（MP S 代表、アテネオリンピック 200m 個人メドレー 6 位入賞）

内 容：講義（目標の自覚、基本姿勢等）、実技（トレーニング法指導、泳法アドバイス等）

「2012 B & G ドリームキャンプ in 穂波」の開催

開催地：B & G 杯全国少年少女カヌー大会 2012（7月28日・29日）の B & G 普及艇 5・6 年生の部において、数多くの選手をエントリーするとともに優秀な成績を収めたセンター・クラブのうち B & G 穂波海洋クラブだいが支部を開催場所と決定。

期 間：平成 24 年 11 月 24 日（土）・25 日（日）2 日間

場 所：福岡県飯塚市 大分小学校クラブハウス（うぐいす塚ため池）

人 数：19 人（クラブ員 15 人・指導者 4 人）

指 導：持田 雅誠氏（アトランタオリンピックカヌー日本代表、B & G 財団職員）

内 容：パドリング指導他

「2012 B & G ドリームキャンプ in 松山」の開催

開催地：2012 B & G O P 級ヨット東日本大会（7月14日・15日）において、B クラスの優勝者が所属する B & G 松山海洋クラブを開催地と決定。

期 間：平成 24 年 12 月 1 日（土）・2 日（日）2 日間

場 所：愛媛県 B & G 松山海洋クラブ（堀江海岸）

人 数：28 人（クラブ員 15 人・指導者 13 人）

指 導：小松 一憲氏（B & G 財団テクニカルアドバイザー ロンドンオリンピックヨット競技コーチ）

内 容：スタート指導、方向転換指導等

(3) 交流支援

カヌー・ヨットなどの海洋性レクリエーション活動を通じた青少年の国際交流を図り、相互理解と友好を深めるとともに、国際的視野・感覚を養い、次代を担うにふさ

わしい青少年を育成した。

①海外海洋クラブとの交流事業（韓国との交流）

「2012 B & G OP級ヨット大会 西日本大会」に、韓国からB & G釜山海洋クラブが参加し、財団より開催地クラブとの懇親会開催の支援を行うとともに、ヨットレースや交流会を通じた国際交流を図った。

ア. 時 期：平成24年7月15日（土）～17日（火）

イ. 場 所：大分県別府市

ウ. 内 容：「2012 B & G OP級ヨット大会 西日本大会」競技
（別府クラブとの懇親会・レセプション）

②国際ジュニア親善ヨット大会による交流事業（韓国、中国、台湾、香港との交流）

日本・韓国・中国の青少年を対象にしたヨット大会に財団より開催経費の支援を行い、ヨットを通じ青少年およびヨット指導者が国際交流を図った。

また、同時開催の別枠のヨット大会に参加した台湾、香港からのジュニアセーラーとも交流事業は合同で実施されたためこれまでより多くの国々との国際交流となった。

ア. 時 期：平成24年8月17日（金）～20日（月）

イ. 場 所：中国 上海市 浦東新区臨港新城地区「滴水湖」

ウ. 人 数：選手80名（日本選手11名）

エ. 内 容：「2012 第18回上海・釜山・福岡 親善ヨット大会」レース視察・交歓会
出席

3. 助成・活動支援 日本財団助成事業

(1) 海洋センター施設整備

①通常修繕に対する助成金の交付

修繕助成を決定した海洋センターに対し、総額632,400,000円の助成を行った。

修繕項目	市町村数	センター数	施設数	助成金額
通常修繕	43	43	45	617,100,000円
災害復旧修繕	2	2	2	15,300,000円
合 計	45	45	47	632,400,000円

〈通常修繕〉

	道府県名	センター名	種別	施設名	確定額
1	北海道	せたな町	通常	体育館	16,900,000
2	北海道	斜里町	通常	プール	30,000,000
3	北海道	美幌町	通常	プール	5,700,000
4	北海道	古平町	通常	プール	11,700,000
5	青森県	弘前市	通常	体育館	22,700,000
6	群馬県	玉村町	通常	プール	30,000,000

7	埼玉県	久喜市栗橋	通常	プール	5,700,000
8	千葉県	大多喜町	通常	プール	12,200,000
9	千葉県	香取市山田	通常	プール	12,600,000
10	新潟県	阿賀野市安田	通常	プール	2,700,000
11	新潟県	糸魚川市能生	通常	ミニ艇庫	3,400,000
12	新潟県	佐渡市羽茂	通常	プール	8,000,000
13	山梨県	甲斐市敷島	通常	プール	4,100,000
14	山梨県	甲州市塩山	通常	プール	2,200,000
15	長野県	白馬村	通常	プール	30,000,000
16	長野県	松本市波田	通常	プール	30,000,000
17	岐阜県	川辺町	通常	体育館	2,300,000
18	静岡県	川根本町本川根	通常	プール	19,800,000
19	静岡県	袋井市袋井	通常	プール	5,500,000
20	三重県	伊賀市大山田	通常	プール	6,100,000
21	滋賀県	高島市高島	通常	体育館	12,900,000
22	大阪府	千早赤阪村	通常	プール	19,800,000
23	兵庫県	南あわじ市南淡	通常	艇庫	2,300,000
24	兵庫県	上郡町	通常	プール	12,300,000
25	兵庫県	香美町香住	通常	プール	19,400,000
26	兵庫県	芦屋市	通常	プール	3,200,000
27	兵庫県	猪名川町	通常	プール	30,000,000
28	岡山県	奈義町	通常	プール	19,700,000
29	岡山県	井原市井原	通常	プール	11,500,000
30	岡山県	赤磐市吉井	通常	体育館	30,000,000
31	広島県	三原市久井	通常	プール	9,300,000
32	広島県	三原市久井	通常	体育館	900,000
33	愛媛県	今治市吉海	通常	艇庫	6,200,000
34	愛媛県	今治市吉海	通常	体育館	24,200,000
35	愛媛県	松山市中島	通常	体育館	2,500,000
36	愛媛県	愛南町御荘	通常	プール	23,200,000
37	高知県	香美市香北	通常	プール	14,200,000
38	高知県	四万十町窪川	通常	体育館	13,700,000
39	福岡県	久留米市三潆	通常	プール	30,000,000

40	福岡県	川崎町	通常	プール	5,600,000
41	長崎県	平戸市生月	通常	プール	12,100,000
42	熊本県	長洲町	通常	体育館	1,900,000
43	鹿児島県	長島町	通常	艇庫	2,500,000
44	鹿児島県	日置市東市来	通常	体育館	19,400,000
45	鹿児島県	与論町	通常	プール	28,700,000
計					617,100,000

②災害復旧修繕に対する調査および助成金の交付

〈災害復旧修繕〉

対象となる災害（センター名）		確定額
H24	福島原発事故（本宮市白沢）	13,000,000
H24	竜巻被害（伊江村）	2,300,000
計		15,300,000 円

③決定書授与式の開催

平成 24 年度の修繕助成金額が 1,000 万円を超える 27 カ所の自治体において、修繕助成金決定書授与式を行い、25 社の新聞社と 2 社のテレビ局の取材を受け、ボートレースの収益金の有効活用について、広く住民に周知した。

④リニューアルオープン式典の出席

9 カ所の自治体において、修繕工事完了後に実施された「リニューアルオープン式典」に出席し、工事完了確認を行うとともに、自治体執行部をはじめ、議会関係者、式典に出席した多くの地域住民に対し、更なる利用促進を PR した。

⑤海洋センターの現状調査

45 カ所の海洋センターを対象に、市町村長や教育長等との面談のほか、海洋センターの管理・運営状況および問題点等の確認を行った。

⑥海洋センターの評価

海洋センター運営状況及び指導員の配置状況等に基づき、6 段階（特 A・A・B・C・D・E）の年間評価（4 月～3 月）及び中間評価（4 月～9 月）を行い公表した。

【年間評価】

- ・評価期間：平成 23 年度（平成 23 年 4 月～平成 24 年 3 月）
- ・公表時期：平成 24 年 4 月

・評価別海洋センター数

特A	A	B	C	D	E	廃止
172	129	119	40	8	1	5

⑦優良海洋センターの表彰（特A・A）

海洋センター評価に基づき、A評価以上の優良海洋センターを「第4回B&G全国サミット」で表彰した。

ア. 時 期：平成25年1月31日（木）

イ. 場 所：笹川記念会館国際ホール

ウ. 対 象：特A評価172センター A評価129センター 計301センター

⑧海洋センター存続に係る協議

海洋センター評価に基づき、2年連続でC評価以下となった2海洋センターに対し、首長と財団役員による、海洋センター存続等に関する協議・指導を行った。

ア. 時 期：平成25年1月28日（金）、及び3月14日（木）

イ. 場 所：B&G財団会議室

【日程及び出席者】

日程	センター名	出席者	結果
1月28日 (金)	青森県 七戸町	町長 小又 勉 教育委員会 スポーツ振興課長 小原 信明	用途変更について継続協議
3月14日 (木)	岩手県 花巻市 (東和)	副市長 高橋 公男 商工観光部東京事務所 副所長 藤原 克典 まちづくり部スポーツ振興課 課長 藤田 哲司	運営改善

(2) 海洋クラブ登録と器材配備

B&Gプランの趣旨に賛同し、地域に根付いた海洋性レクリエーション活動を組織的・継続的に実施する団体を「B&G海洋クラブ」として登録するとともに、海洋センター・海洋クラブに対して舟艇器材配備などの活動支援を行うことにより、海洋性レクリエーションおよび海事思想の普及振興を図る。

①舟艇器材配備

ア. 平成24年度舟艇器材追加・再配備 日本財団助成事業

29海洋センター・10海洋クラブ 計39カ所からの申請を受け、活動状況等を審査の結果、舟艇器材等459点（救助艇：6艇、船外機4台、ライフジャケット405着、スローライン・レスキューチューブ：35本、カヌー：7艇、その他：2器材）7,250,174円相当の配備を行った。

イ. 海洋クラブ登録に係る舟艇器材の新規配備 日本財団助成事業

新たに登録された3海洋クラブに対し、カヌー・救助艇等の舟艇器材4,390,428円相当を配備した。

- ・熊本県長洲町 B & G長洲海洋クラブ

1種 60 器材 (ライフジャケット 60 着)

購入総額：425,460 円

B & G海洋センター艇庫、舟艇器材を保有しているため老朽化した安全器材 (ライフジャケット) のみ配備

- ・愛媛県新居浜市 B & G新居浜海洋クラブ

10種 34 器材 (救助艇：2 艇、船外機 2 台、船台 3 台、ライフジャケット 26 着、ヨット：2 艇、その他：1 器材)

購入総額：2,498,649 円

- ・岐阜県恵那市 B & G恵那海洋クラブ

11種 81 器材 (船台・ラック：9 台、ライフジャケット：46 着、カヌー：11 艇、パドル：15 本)

購入総額：1,466,319 円

※平成 22 年度「海洋センターへの海洋クラブ設立支援」制度により、救助艇などの舟艇器材が既に配備済みのため要望のあったカヌー器材等のみ配備

ウ. 海洋クラブ活動継続のための特別配備

配備申請のあった 1 海洋センター・2 海洋クラブに対し、安全かつ円滑な海洋性レクリエーションの継続的活動に必要な舟艇器材 2,170,655 円相当を、特別配備として配備した。

- ・新潟県胎内市 胎内市中条 B & G海洋センター

2種 25 器材 (カヌー：5 艇、ライフジャケット：20 着)

購入総額：557,970 円 (B & G財団負担額：557,970 円)

- ・愛知県名古屋市 B & Gなごや海洋クラブ

2種 4 器材 (船外機：1 台、ヨット：3 艇)

購入総額：1,376,855 円

(B & G財団負担額：1,200,000 円、配備先クラブ負担額：176,855 円)

- ・愛知県蒲郡市 B & G蒲郡海洋クラブ

5種 29 器材 (ヨット備品：1種 14 器材、ボート備品：4種 15 器材)

購入総額：235,830 円 (B & G財団負担額：235,830 円)

エ. 舟艇器材配備式の実施

新規登録海洋クラブに対する舟艇器材の配備及び海洋センターへの舟艇器材の特別配備後に「舟艇器材配備式」を 2 ヶ所で実施し、B & G海洋クラブ・海洋センターの存在を近隣住民に知らせ、マスコミ取材等により財団事業を広く周知した。

- ・実施クラブ及び実施日

名 称	実施日
B & G宮崎シーライオン海洋クラブ (宮崎県)	平成 24 年 5 月 26 日
B & Gたいない海洋クラブ (新潟県)	平成 25 年 9 月 18 日

②海洋クラブの登録及び活動促進

海洋性レクリエーション実施の組織作りとして「B&G海洋クラブ」の登録と活動支援を行う。

新たにB&G海洋クラブを3ヵ所登録し、舟艇器材配備などの活動支援を行った。

これにより、海洋クラブの総数は281クラブとなった。

・新規に登録した海洋クラブ

名 称	登録日
B & G長洲海洋クラブ（熊本県）	平成 25 年 2 月 15 日
B & G新居浜海洋クラブ（愛媛県）	平成 25 年 2 月 15 日
B & G恵那海洋クラブ（岐阜県）	平成 25 年 3 月 14 日

③海洋クラブ評価の実施

海洋クラブの運営・活動状況等に基づき、6段階（特A・A・B・C・D・E）の年間評価を行い公表した。

【年間評価】

- ・評価期間：平成 23 年度（平成 23 年 4 月～平成 24 年 3 月）
- ・公表時期：平成 24 年 4 月
- ・評価別海洋クラブ数

特A	A	B	C	D	E（休部）
27	43	86	48	7	37

④海洋クラブ表彰の実施

「海洋クラブ評価」に基づき、A評価以上の優良海洋センターを「教育長・責任者 海洋センター・海洋クラブ活性化会議」で表彰した。

ア. 時 期：平成 24 年 10 月～11 月

イ. 場 所：「教育長・責任者 海洋センター・海洋クラブ活性化会議」会議場 10 ヵ所

ウ. 対 象：特A評価 27 クラブ A評価 43 クラブ 計 70 クラブ

⑤海洋クラブの現況調査

海洋クラブ評価に基づき、13 ヵ所の海洋クラブに対し、優良な海洋クラブ活動の状況視察や活動が不振な海洋クラブの運営上の問題点等の確認を行い、活動が不振な海洋クラブに対しては、運営継続に関する協議や改善指導を行った。

(3) 事業活動助成

スポーツ大会、研修会等の事業に対し、助成事業審査委員会を 2 回開催し、312 事業に対し 44,340,000 円の助成金を決定した。

事業が終了した 289 事業（辞退：23 事業）に対し、31,493,000 円を交付した。

①助成事業審査委員会決定内容

ア. 助成決定額等

対 象	事業数	事業費総額	助成決定額
海洋センターブロック連絡協議会	31 事業	9,630,830 円	6,617,000 円
海洋センター道府県連絡協議会	78 事業	28,608,998 円	12,973,000 円
海洋センター	81 事業	19,255,708 円	7,995,000 円
海洋クラブ	70 事業	17,357,420 円	10,795,000 円
指導者会	52 事業	8,359,269 円	5,960,000 円
合 計	312 事業	83,212,225 円	44,340,000 円

②助成交付額等

対 象	事業数	事業費決算額	助成額
海洋センターブロック連絡協議会	31 事業	9,811,188 円	4,689,000 円
海洋センター道府県連絡協議会	73 事業	19,068,651 円	8,198,000 円
海洋センター	72 事業	15,022,016 円	6,005,000 円
海洋クラブ	68 事業	12,031,555 円	8,295,000 円
指導者会	45 事業	6,059,517 円	4,306,000 円
合 計	289 事業	62,010,927 円	31,493,000 円

②助成事業審査委員会

ア. 第 30 回助成事業審査委員会

)時 期：平成 24 年 5 月 28 日 (月)

)場 所：B&G財団 会議室

)審議事項：平成 24 年度第 2 回申請分助成事業内容の審査及び交付の可否について

(対象期間：平成 24 年 6 月 1 日～平成 25 年 3 月 31 日実施の事業)

③第 31 回助成事業審査委員会

ア. 時 期：平成 24 年 9 月 27 日 (木)

イ. 場 所：B&G財団 会議室

ウ. 審議事項：平成 24 年度第 3 回申請分助成事業内容の審査及び交付の可否に

ついて

(対象期間：平成 24 年 10 月 1 日から平成 25 年 3 月 31 日実施の事業)

(4) その他支援

①マリンスポーツ技能認定

海洋センター利用者および海洋クラブ員に対しカヌー、ヨット、水泳の技術を認定する技能認定テストを海洋センター・海洋クラブに委託して実施した。

ア. 時 期：通年

イ. 人 数：4,279名（29センター）

②B&G財団会長賞

海洋センター・海洋クラブが開催する「B&G財団会長賞」大会及び海洋センター道府県連絡協議会、海洋センターブロック連絡協議会で開催する「マリンスポーツ大会」に賞状を交付した。

ア. 時 期：通年

イ. 交付数：B&G財団会長賞 1,762枚（83センター 130事業）
マリンスポーツ大会 2,760枚
（18道府県連絡協議会 5ブロック連絡協議会 32事業）

③「2012年 第44回 日本オプティミストセーリング選手権大会」への協賛

「B&G OP級ヨット大会」上位者に出場枠のある同大会への協賛として、初出場の選手の最上位者に「B&G新人賞」を贈呈した。

これまでの「B&G新人賞」受賞者は、受賞後も各種のヨット大会で活躍しているため、今回の受賞者も今後の活躍が期待される。

ア. 時 期：平成24年8月23日（木）～26日（日）

イ. 場 所：神奈川県葉山町 葉山港

ウ. 人 数：小・中学生140名

エ. 「B&G新人賞」受賞者：

男子の部：玉山 義規・小6・男子（丸玉セーリングクラブ）

女子の部：竹本 朱理亜・中2・女子（和歌山ジュニアヨットクラブ）

④B&G「体験クルーズ」への招待

海洋センターブロック連絡協議会が主催するスポーツ大会成績優秀者25名をB&G「体験クルーズ」へ招待した。（参加費免除）

招待者：海洋センターブロック連絡協議会6ヵ所 合計25名

⑤B&G「親子ふれあい体験セミナー」への招待

「第2回全国ウォータースポーツ大会北日本大会」（平成23年7月、石川県七尾市にて開催）における成績優秀者（親子1組2名）をB&G「親子ふれあい体験セミナー」（平成24年8月2日～8月6日）へ招待した。（参加費免除）

【2】幼児から高齢者までの心身の健康づくりに関する事業

1. 幼児の心身の健康づくりを目指した運動プログラムの普及

(1) 幼児運動プログラム講習会

幼児運動プログラムの普及のため、講師派遣依頼を受け財団職員を派遣した。

幼児アクアリズム運動プログラム

場 所	実施時期	人 数
岐阜県 中津川市付知	平成 24 年 9 月 10 日 (月)	指導者 14 人 幼 児 32 人
富山県 富山市八尾	平成 25 年 3 月 20 日 (水)	指導者 12 人 幼 児 22 人
合 計		指導者 26 人 幼 児 54 人

幼児フロアリズム運動プログラム

場 所	実施時期	人 数
島根県 雲南市加茂	平成 24 年 11 月 30 日 (木)	指導者 16 人 幼 児 47 人
栃木県 下野市国分寺	平成 25 年 2 月 7 日 (木)	指導者 30 人 幼 児 21 人
合 計		指導者 46 人 幼 児 68 人

(2) 運動能力測定結果のデーター集計処理システムの運用

幼児運動プログラムモデルセンター・導入センターが定期的にシステムの活用を行った。

(3) 幼児運動プログラムモデル・導入センター講習会

「幼児運動プログラム」第 5 回モデルセンター講習会

ア. 時 期：平成 25 年 3 月 15 日～16 日

イ. 場 所：戸越台中学校温水プールおよび笹川記念会館 4 階会議室

ウ. 人 数：アクアリズム 14 名 (13センター)
フロアリズム 21 名 (19センター)

エ. 対 象：モデルセンター・導入センターの担当者、運動指導者、保健福祉関係者等

オ. 内 容：「幼児プログラム」実技・講義、事例発表、グループディスカッション

カ. 講 師：アクアリズム実技 株式会社ジェイエスセネラルアドバイザー 木尾 克己
フロアリズム講師 リトミック研究センター 杉本 明
講義 運動保育師会 代表 柳澤 弘樹

(4) 広報活動

財団ホームページ上でモデルセンターの活動状況等を周知した。

2. 中高年の生活習慣病予防を目指した運動プログラムの提供

(1) 運動プログラムの動画・ポスターの周知

「中高年対象の運動プログラム」を活用し、海洋センター利用者の健康づくりを促進するため、プログラムの動画配信と周知を行った。

○中高年対象の運動プログラムの動画配信

陸上「元気はつらつ体操」・水中「水でらくらく体操」運動プログラムの基本編と症状別編の動画配信を行った。

3. 高齢者の健康づくりを目指した運動プログラムの普及

(1) 「転倒・寝たきり予防プログラム」講習会の開催

転倒・寝たきり予防プログラムの普及のため、講師派遣依頼を受け財団職員を派遣した。

転倒・寝たきり予防プログラム

場 所	実施時期	人 数
富山県 上市町	平成 24 年 10 月 16 日 (火)	指導者 18 人 高齢者 13 人
山口県 周防大島町	平成 24 年 11 月 30 日 (金)	指導者 15 人 高齢者 30 人
香川県 三木町	平成 24 年 12 月 13 日 (木)	指導者 8 人 高齢者 24 人
合 計		指導者 41 人 高齢者 67 人

(2) 「転倒・寝たきり予防プログラム」モデルセンター活動の周知

財団ホームページ上でモデルセンターの活動状況等を周知した。

(3) 転倒・寝たきり予防プログラムモデル・導入センター講習会

「転倒・寝たきり予防プログラム」第 9 回モデルセンター講習会

ア. 時 期：平成 25 年 3 月 5 日～6 日

イ. 場 所：笹川記念会館 4 階 第 4・第 5 会議室

ウ. 人 数：31 名 (20 センター)

エ. 対 象：モデルセンター・導入センターの担当者、運動指導者、保健福祉関係者等

オ. 内 容：「転倒・寝たきり予防プログラム」講義、事例発表、「高齢者のためのレクリエーションプログラム」実技、グループディスカッション

カ. 講 師：講義 東京農業大学地域環境科学部 教授 上岡 洋晴

実技 日本レクリエーション協会 専門委員 東 正樹

(4) 広報活動

公式ホームページでモデルセンターの活動状況を公開している。

【3】指導者の養成に関する事業

1. 指導者養成

(1) アドバンスト・インストラクター養成 ※日本財団助成事業

主として、海洋性レクリエーション活動において実技指導に携わり、海事知識および海洋性レクリエーションの普及に努める指導員を養成した。

ア. 時 期：平成24年6月1日（金）～7月5日（木） 35日間

イ. 場 所：沖縄県本部町B&G海洋センター（マリニピアザ オキナワ）

ウ. 対 象：地方自治体および財団が認める団体等から推薦があった20歳以上の者

エ. 人 数：41名（37海洋センター、財団職員4名）

※養成者数累計：2,054人

オ. 研修項目：B&G財団概要、指導員概要、海洋性レクリエーション理論・実技・実習、水泳実技、運動生理学、安全管理、海洋センター管理・運営、健康増進プログラム、環境教育、心肺蘇生法等

※特記事項：開始3日目にインフルエンザが発生し感染拡大の予防に努めた。これに伴い、スケジュールの変更し履修時間に影響の無いよう対処した。

カ. 講 師：

《実技》

氏名	所属・役職	科目
小松 一憲	B&G財団テクニカルアドバイザー	ヨット学科・実技
濱本 徹夫	大分県別府海洋クラブ 代表	ヨット学科・実技・試験官
谷川 真理	(株)アチーブメント	ウォーキング・ジョギング
中村 真衣 木尾 克己	(株)JSS スイミングアドバイザー (株)JSS ゼネラルアドバイザー	水泳理論・実技

《講義》

氏名	所属・役職	科目
田代 大輔	気象キャスターネットワーク事務局長	気象・海象
野口 智博	日本大学 教授	水泳理論・実技
椿本 昇三	筑波大学 教授	着衣泳
柳 敏晴	名桜大学 教授	海洋性レクリエーション総論
小林 元一	(株)松田平田設計 大阪事務所副所長	施設の保守管理
小峯 力	流通経済大学 教授 日本ライフセービング協会 理事長	海洋性レクリエーション活動と安全
北川 薫	中京大学 学長	運動生理学
海野 義明	オーシャンファミリー 代表理事 B&G葉山海洋クラブ 代表	海洋教育と海洋環境
古瀬 浩史	(株)自然教育研究センター 取締役	インタープリテーション
渡辺 未知	(株)自然教育研究センター	
千野 精一郎	(株)自然教育研究センター	

《講習》

氏名	所属・役職	科目
上野 真宏 篠崎 充洋 横倉 厚 兵後 有亮 尾辻 章	日本ライフセービング協会 公認インストラクター	心肺蘇生法（CPR）講習会 （日本ライフセービング協会認定）

《講話》

氏名	所属・役職	科目
工藤 祐直	青森県南部町 町長	町長講話「指導者の重要性」

キ. サポートスタッフ

氏名	所属・役職	科目
大内 義崇	北海道鷹栖町海洋センター (アドバンスト・インストラクター)	先輩指導者講話、マリン実技
工藤 陽平	熊本県湯前町海洋センター (アドバンスト・インストラクター)	カヌー実技
飛鳥馬 昇	埼玉県松伏町海洋センター (アドバンスト/アクア・インストラクター)	水泳実技、マリン実技
金久 博	徳島県阿南市阿南海洋センター (アドバンスト/アクア・インストラクター)	水泳・カヌー実技検定

《修了記念講話特別講師》

氏名	所属・役職	科目
高良 文雄	沖縄県本部町 町長	アドバンスト・インストラクター養成研修 修了記念講話

(2) アクア・インストラクター養成 ※日本財団助成事業

主として、プール活動の実技に携わり、海洋性レクリエーションの普及に努める指導者を養成した。

ア. 時期：平成24年6月1日（金）～6月23日（土） 23日間

イ. 場所：沖縄県本部町B&G海洋センター（マリニピアザ オキナワ）

ウ. 対象：地方自治体および財団が認める団体等から推薦があった20歳以上の者

エ. 人数：38名（37海洋センター）

※養成者数累計：1,371名

オ. 研修項目：B&G財団概要、指導員概要、水泳理論・実技・実習、海洋性レクリエーション理論・実技、運動生理学、安全管理、海洋センター管理・運営、健康増進プログラム、環境教育、心肺蘇生法等

カ. 講師：

《講義》

氏名	所属・役職	科目
田代 大輔	気象キャスターネットワーク事務局長	気象・海象
野口 智博	日本大学 教授	水泳理論・実技
椿本 昇三	筑波大学 教授	着衣泳
柳 敏晴	名桜大学 教授	海洋性レクリエーション総論
小林 元一	(株)松田平田設計 大阪事務所副所長	施設の保守管理
小峯 力	流通経済大学 教授 日本ライフセービング協会 理事長	海洋性レクリエーション活動と安全
北川 薫	中京大学 学長	運動生理学
海野 義明	オーシャンファミリー 代表理事 B & G 葉山海洋クラブ 代表	海洋教育と海洋環境
工藤 祐直	青森県 南部町長	町長講話「指導者の重要性」

《講習》

氏名	所属・役職	科目
谷川 真理	(株)アチーブメント	ウォーキング・ジョギング
中村 真衣 木尾 克己	(株)JSS スイミングアドバイザー (株)JSS ゼネラルアドバイザー	水泳理論・実技
古瀬 浩史	(株)自然教育研究センター 取締役	インタープリテーション
渡辺 未知	(株)自然教育研究センター	
千野 精一郎		
上野 真宏 篠崎 充洋 横倉 厚 兵後 有亮 尾辻 章	日本ライフセービング協会 公認インストラクター	心肺蘇生法 (CPR) 講習会 (日本ライフセービング協会認定)

キ. サポートスタッフ

氏名	所属・役職	科目
鈴木 亜貴子	千葉県鋸南町海洋センター (アキア・インストラクター)	水泳実技
大越 利夫	広島県府中市海洋センター (アドバンスト・インストラクター)	水泳実技
木村 貴虎	栃木県芳賀町海洋センター (アキア・インストラクター)	水泳実技

《修了記念講話特別講師》

氏名	所属・役職	科目
岸 ゆき	女優 評議員	アキア・インストラクター養成研修修了講話

(3) インストラクター養成

海洋センター・海洋クラブ等において、アドバンスト・インストラクターをサポートし、海洋性レクリエーションの基礎指導等に携わる指導員を養成した。

- ア. 時 期：平成 24 年 6 月 1 日（金）～13 日（日） 11 日間
- イ. 場 所：沖縄県本部町 B & G 海洋センター（マリンピアザ オキナワ）
- ウ. 対 象：地方自治体および財団が認める団体等から推薦された 20 歳以上の者
- エ. 人 数：2 名（2 海洋センター）

※養成者数累計：729 名

- オ. 研修項目：B & G 財団概要、指導員概要、海洋性レクリエーション理論・実技・実習等

(4) リーダーおよびジュニアリーダー養成委託

海洋センター等に対し、リーダーおよびジュニアリーダーの養成と、資格失効者の再登録研修を委託した。

- ア. 場 所：海洋センター・海洋クラブ
- イ. 対 象：海洋センターおよび海洋クラブ等において、海洋性レクリエーションまたは水泳指導に携わる者（リーダーは 20 歳以上、ジュニアリーダーは 13 歳以上 20 歳未満）
- ウ. 研修項目：海洋性レクリエーションまたは水泳の基礎的な理論・実技、安全管理等
- エ. 人 数 等：新規養成 181 名（33 センター・7 海洋センター・連絡協議会）
再登録 16 名（3 センター）

2. 指導者研修

B & G 指導員を対象に、資格取得後のフォローアップとして、著名な講師等による最新知識・情報提供や、技術講習のための研修会を行い、指導員の資質向上を図った。

(1) 指導員研修会

新しいプログラムや安全管理等の情報提供を主とした研修会を行った。

- ア. 時 期：平成 25 年 1 月 25 日～26 日
- イ. 場 所：笹川記念会館
- ウ. 対 象：指導員資格登録者、資格失効者および海洋センター担当者
- エ. 人 数：257 名（215 センター）
- オ. 講 師：
 - ・株式会社ジェイエスエス スイミングアドバイザー 中村 真衣 氏
基調講演 「スポーツでこどもたちの夢を育もう」
 - ・日本体育施設協会 副会長 柗 巖 氏
「スポーツ施設の安全管理」
 - ・筑波大学体育課選考 準教授 大藏 倫博 氏

講義「超高齢社会におけるロコモティブシンドロームと認知症の予防を
目指した身体運動」

・WSN遠州ネット事務局 事務局長 城田 守 氏

「水辺の事故防止と安全普及活動の継続」

・海洋センター活動事例発表

「艇庫施設利用向上」

岐阜県八百津町海洋センター 山田 丈寿 氏

「プール施設利用向上」

栃木県芳賀町海洋センター 木村 貴虎 氏

「体育館施設利用向上」

埼玉県松伏町海洋センター 高鹿 健士 氏

(2) レベルアップ研修会

新しいプログラムや情報の提供、安全管理等を中心としたカヌーおよびヨットの実技
研修会を行った。

①カヌー研修会

ア. 時 期：平成 24 年 8 月 23 日

イ. 場 所：岐阜県川辺町B & G海洋センター

ウ. 対 象：アドバンスト・インストラクター

エ. 人 数：15 名 (8 センター)

オ. 講 師：持田 雅誠 (財団職員、B & G 人材バンク講師)

②水泳研修会

ア. 時 期：平成 24 年 9 月 16 日

イ. 場 所：青森県南部町名川B & G海洋センター

ウ. 対 象：アドバンスト/アクア・インストラクター

エ. 人 数：16 名 (7 センター)

オ. 講 師：野口 智博 氏 (日本大学 教授)

③ヨット研修会

ア. 時 期：平成 24 年 10 月 30 日

イ. 場 所：福岡県福岡市 福岡市小戸ヨットハーバー

ウ. 対 象：アドバンスト・インストラクター

エ. 人 数：13 名 (5 センター・1 クラブ)

オ. 講 師：石橋 顕 氏 (北京オリンピックヨット 49 e r 日本代表)

(3) 帆船研修

独立行政法人 航海訓練所の運行する帆船「海王丸」での体験航海と船内研修を行った。

ア. 時 期：平成 24 年 10 月 23 日～26 日 (3 泊 4 日)

イ. 場 所：兵庫県 神戸港～香川県 高松港

ウ. 対 象：B & G 指導員

エ. 人 数 : 9 名 (4 センター及び財団職員)

(4) 指導者会の活動促進

指導者会の登録および活動を促進することにより、海洋センター・海洋クラブ、海洋センター道府県連絡協議会等の活動の活性化を図った。

①指導者会登録推進

41 ヲ所 (52 センター) の指導者会を新たに登録し、指導者会登録数は、354 ヲ所 (354 センター、297 自治体) となった。登録人数は 2,896 人となった

②第 4 回「B & G 全国指導者会」ブロック責任者会議の開催

地域指導者会の活動状況および運営上の課題等を共有し、全国指導者会および地域指導者会の活性化を図るために会議を行った。

ア. 時 期 : 平成 24 年 9 月 25 日～26 日 (第 4 回 B & G 全国指導者会)

イ. 場 所 : 虎ノ門 35 森ビル 財団会議室

ウ. 対 象 : 正副会長およびブロック責任者

エ. 人 数 : 13 名

オ. 会議テーマ : 第 2 回 全国指導者会 総会について

第 4 回「B & G 全国指導者会」正副会長会議の開催

ア. 時 期 : 平成 24 年 11 月 26 日～27 日

イ. 場 所 : 虎ノ門 35 森ビル 財団会議室

ウ. 出席者 : B & G 全国指導者会

会 長 工藤 祐直 (青森県南部町長)

副会長 金久 博 (徳島県阿南市)

副会長 川島 正光 (埼玉県久喜市)

B & G 財団

常務理事 古山 透

プロジェクトチーム

エ. 会議テーマ : 第 2 回全国指導者会 総会について

④第 2 回 B & G 全国指導者会総会

ア. 時 期 : 平成 25 年 1 月 26 日

イ. 場 所 : 笹川記念会館 国際会議場

ウ. 出席者 : B & G 全国指導者会 指導者 511 名

エ. 内 容 : 未来を担う子ども達のために“育てよう生きる力” “とどけよう笑顔と元気”をテーマに開催され、3 年間の事業報告を行うとともに、今後の活動方針・活動目標について承認された。

また、会長 (工藤祐直・青森県南部町長)、副会長 (金久博・徳島県阿南市、川島正光・埼玉県久喜市) が再選された。

その他、小松一憲氏 (ロンドン五輪セーリング日本代表コーチ) による基調講演、優良指導員並びに優良指導者会褒賞が行われた。

⑤周知活動

- ア. 「かわら版」の発行やブログ等で活動の情報を発信した
- イ. 指導者会のシンボルマークを全国の地域指導者会に発信した

3. B&G人材バンク

海洋センター等の活性化および財団事業の効率的・効果的な普及推進を図るため、財団が認定する指導者を「B&G人材バンク」に登録し、プログラム普及の担い手として海洋センター等が実施する研修会等に派遣した。

(1) 講師・指導者派遣

海洋センター等が実施する研修会等に対し、人材バンク登録の指導者を派遣した。

派遣人数：12名、派遣数：14カ所、参加者合計1,659名

①海洋性レクリエーション

派遣者	内 容	派遣先	人数
野中 直美	プールでカヌー体験会 平成24年6月28日(木)	大阪府 千早赤坂村	81人
依田 伸一朗	カヌー教室 平成24年8月2日(木)	鹿児島県 長島町	30人
(特別講師) 中村 真衣	オリンピックメダリスト中村真衣さんによる講演・水泳教室 (プール修繕事業) 平成23年8月25日(土)	岩手県 久慈市山形	100人
(特別講師) 谷川 真理	第50回記念北茨城駅伝競走大会 平成24年12月2日(日)	茨城県 北茨城市	1,000人
(特別講師) 眞喜志 慶治	香取広域中学校柔道交流会 平成25年2月9日(土)	千葉県 香取市	59人
(特別講師) 中村 真衣	メダリスト中村真衣さんの水泳教室 (リニューアルオープン) 平成25年3月2日(土)	群馬県 玉村町	47人
(特別講師) 眞喜志 慶治	少年少女柔道教室 平成25年3月17日(日)	石川県 七尾市	80人
(特別講師) 太田 忠徳	少年少女柔道教室 (リニューアルオープン) 平成25年3月23日(土)	青森県 弘前市	100人
合 計		8カ所	1,497人

②転倒・寝たきり予防プログラム

派遣者	内 容	派遣先	人数
伏木 文秀	転倒・寝たきり予防プログラム1日体験 平成24年11月30日(金)	島根県 雲南市加茂	20人
合 計		1カ所	20人

幼児フロア運動プログラム

派遣者	内 容	派遣先	人数
大関 真理子	「フロアリズムレベルアップ研修会」 平成 24 年 11 月 30 日（木）	島根県 雲南市加茂	49 人
秋山 稔美	「フロアリズム一日体験会」 平成 25 年 3 月 23 日（土）	滋賀県 野洲市中主	10 人
合 計		2 ヲ所 59 名	

④幼児アクア運動プログラム

派遣者	内 容	派遣先	人数
竹内 浩子	幼児アクアリズム運動プログラム 指導者研修会 平成 24 年 7 月 5 日（木）	徳島県 牟岐町	33 人
神谷 法子	幼児アクアリズム運動プログラム 平成 24 年 8 月 29 日（水）	岐阜県 恵那市	30 人
合 計		2 ヲ所 63 人	

親と子のふれあいキャンプ

派遣者	内 容	派遣先	人数
川島 正光	親と子のふれあいキャンプ 平成 24 年 8 月 11 日（土）～12 日（日）	栃木県下野市	7 組 20 人
合 計		1 ヲ所 7 組 20 人	

⑥幹旋・紹介・依頼

講師名	内 容	場 所
中村 真衣	リニューアルオープン 平成 24 年 5 月 12 日（土）	栃木県 那須烏山市南那須
中村 真衣	リニューアルオープン 平成 24 年 6 月 19 日（火）	岡山県 瀬戸内市長船
中村 真衣	リニューアルオープン 平成 24 年 6 月 23 日（土）	滋賀県 野洲市中主
源 純夏	リニューアルオープン 平成 24 年 7 月 6 日（金）	徳島県 牟岐町
中村 真衣	リニューアルオープン 平成 24 年 7 月 24 日（土）	福島県 本宮市白沢
朝日 健太郎	リニューアルオープン 平成 24 年 11 月 18 日（日）	高知県 四万十町窪川

原田 文子	健康・じんけんフェスタ 平成 24 年 11 月 11 日（日）～12 日（月）	鹿児島県 与論町
細井 正幸	プールリニューアル水泳教室 平成 25 年 3 月 9 日（土）	岡山県 井原市井原
合 計		9 カ所

【4】ネットワーク構築と調査研究事業

1. ネットワーク構築

(1) 情報ネットワークに係る活動

①業務効率化を図る情報処理システムの整備

内部ネットワークの安定運用に努めるとともに、メールサービスの移行、アンケート調査サービスの試験的な導入、電子記録媒体のセキュリティー強化等のシステム環境の整備を図った。

②B & Gコンパスのリニューアル調査

B & Gコンパスの運用を行っているサーバ等の老朽化に伴い、海洋センター・海洋クラブ等に対しコンパスについてのアンケートやヒアリングを実施し、平成 25 年度にリニューアルを行うためのシステムの基本仕様等の策定を行った。

③インターネットを利用した大会の提供

主に海洋センター利用者を対象に、日々の練習や活動の成果を競う場として、インターネットを活用した 2 大会を提供した。なお、今年度はウォーターマラソンの参加者数の増加をはかるため、夏の期間に「サマーチャレンジ賞」を設定した。

- ・インターネット水泳記録会 申請件数：10,376 件
- ・ウォーターマラソン 申請件数：5,854 件
- (内、サマーチャレンジ賞 申請件数：1,145 件)

(2) 人的ネットワークに係る活動 ※日本財団助成事業

①第 5 回「B & G 全国サミット」の開催

「今、海洋センターに求められていること～東日本大震災からの復興・地域の活性化に向けて～」をテーマに、日本財団 笹川 陽平 会長による特別基調講演をはじめ、被災地の復興状況や、地域の活性化に向けた各地の取組みについての発表などを行った。

- ア. 時 期：平成 25 年 1 月 31 日（木）
- イ. 場 所：笹川記念会館国際ホール
- ウ. 人 数：670 名

【出席者の内訳】

	区分	出席者人数
海洋センター関係 334市町村 577人 出席率 85.2% (対象：392市町村)	首長	204名
	副首長	33名
	教育長	171名
	代理	36名
	随行者	133名
来賓	財団理事・評議員・関係団体	54名
報道	マスコミ関係	39名
合計		670名

エ. 内 容 :

- ・特別基調講演「内向き思考の日本人」：日本財団 笹川 陽平 会長
- ・40年の成果と今後の財団支援事業：B & G財団理事長 広渡 英治
- ・「東日本大震災」からの復興と地域の活性化
 - ・海洋センターの再建と海に親しむまちづくり：岩手県洋野町 日當博治 副町長
 - ・震災からの復興への道：福島県本宮市 高松義行 市長
 - ・新しい里海創生によるまちづくり：三重県志摩市 大口秀和 市長
 - ・海洋性スポーツの普及振興とボートピアの基金を活用した地域の活性化
：長崎県時津町 吉田義徳 町長
- ・第5回B & G全国サミット共同宣言
- ・B & G広報大賞表彰
- ・優良海洋センター表彰（「特A評価」・「A評価」・10年連続「特A評価」）
- ・功労者表彰：大村朱澄選手
(ロンドン五輪カヌー代表・静岡県川根本町本川根センター)

②第9回「B & G全国教育長会議～ブロック幹事・道府県代表者～」の開催

「子どもたちに今、求められる力～知育・徳育・体育 バランスのとれた教育から～」をテーマに、明星大学 高橋教授による基調講演をはじめ、教育長による事例発表、教育課題に対する自由討議「体罰を考える」などを行った。

また、武 副会長（岡山県矢掛町）の教育長退任に伴い、岩手県普代村 熊坂伸子 教育長が副会長に選任された。

ア. 時 期：平成 25 年 2 月 14 日（木）～15 日（金）

イ. 場 所：日本財団ビル 2 階会議室

ウ. 人 数：106 名（自治体関係者他）

【出席者の内訳】

	区分	出席者人数
海洋センター関係 83人	教育長	44名
	代理	11名
	担当・随行者	20名
	随行者	8名
来賓	財団理事・評議員・関係団体	14名
報道	マスコミ関係	9名
合計		106名

エ. 内 容 :

2月14日(木)

- ・基調講演「教育再生の課題」：明星大学 高橋 史朗 教授
- ・B & G財団事業の成果報告：B & G財団理事長 広渡 英治
- ・教育長事例発表
 - ・自然体験活動から育む人間関係力：北海道砂川市 井上克也 教育長
 - ・体験活動から育む社会を生き抜く力：島根県雲南市 土江博昭 教育長
 - ・徳育から育む豊かな人間性：徳島県徳島市 石井博 教育長
 - ・生きる力を育む徳育教育：静岡県掛川市 浅井正人 教育長

2月15日(金)

- ・副会長選任
- ・連絡協議会活性化に向けた取組み
- ・連絡協議会事業事例紹介
 - ・関東ブロック連絡協議会 栃木県芳賀町 木村 貴虎 氏
 - ・近畿ブロック連絡協議会 滋賀県米原市 岩山 幸太郎 氏
- ・活性化に向けたディスカッション
- ・教育課題に対する自由討議「体罰を考える」
- ・B & G全国教育長会議「提言」

③「教育長・責任者 海洋センター・海洋クラブ活性化会議」の開催

財団事業への認識を深め、より効果的な活動を展開するため、全国 10 ブロックで会議を行い、当財団からは役員、各ブロック担当職員が出席し、平成 25 年度事業や海洋センター評価の説明、研修会などを行った。

ブ ロ ック	開催地・開催日・教育長事例発表・研修会	出席センター ・クラブ数	出席者数 (教育長)	出席役 職員数
北 海 道	北海道 芦別市 10月25日(木)・26日(金) 教育長事例発表 「生きる力を育む 自然体験活動」 北海道斜里町 村田 良介 教育長 「生きる力を育む 防災・安全教育」 北海道東神楽町 水野 和男 教育長 「生きる力を育む 徳育教育」 北海道滝川市 小田 真人 教育長 研修会 「気象・海象と水辺の安全～天気予報・防災情報を活用する～」 久保田 敬二 氏 (NPO 法人気象キャスターネットワ ーク・気象予報士)	36センター 1クラブ	66人 (12人)	4人
東 北	岩手県盛岡市 10月29日(月)・30日(火) 教育長事例発表 「生きる力を育む 自然体験活動」 秋田県由利本荘市 佐々田 亨三 教育長 「生きる力を育む 防災・安全教育」 岩手県普代村 熊坂 伸子 教育長 「生きる力を育む 徳育教育」 福島県塙町 萩原 照夫 教育長 研修会 「気象防災～気象情報の利活用～」 小田嶋 孝一氏 (盛岡地方気象台 気象情報官) 「地震と津波防災 ～地震・津波から命を守る ために～」 藤原 昭三 氏 (盛岡地方気象台地震津波防災官)	65センター	97人 (21人) 首長部局 責任者2人	4人

<p style="text-align: center;">関 東</p>	<p>東京都港区 10月11日(木)・12日(金) 教育長事例発表 「生きる力を育む 自然体験活動」 栃木県下野市 古口 紀夫 教育長 「生きる力を育む 防災・安全教育」 茨城県北茨城市 松崎 三郎 教育長 「生きる力を育む 徳育教育」 埼玉県吉見町 久保田 幸夫 教育長 研修会 「樹木や森の効果」 林 寿則 氏 ((公財) 地球環境戦略研究機関 国際生態学センター 研究員・博士)</p>	<p>41センター 3クラブ</p>	<p>69人 (19人)</p>	<p>全役職員 員</p>
<p style="text-align: center;">北 陸</p>	<p>富山県 富山市 11月7日(水)・8日(木) 教育長事例発表 「生きる力を育む 自然体験活動」 福井県勝山市 梅田 幸重 教育長 「生きる力を育む 防災・安全教育」 新潟県佐渡市 小林 祐玄 教育長 「生きる力を育む 徳育教育」 福井県大野市 松田 公二 教育長 研修会 「スポーツを通じてあきらめないことを学んだ ～私の原点～」 野尻 あずさ 氏 (マラソンランナー)</p>	<p>38センター 3クラブ</p>	<p>74人 (20人) 首長部局 責任者1人</p>	<p>4人</p>
<p style="text-align: center;">中 部</p>	<p>愛知県 名古屋市 11月14日(水)・15日(木) 教育長事例発表 「生きる力を育む 自然体験活動」 三重県菰野町 川瀬 敏 教育長 「生きる力を育む 防災・安全教育」 岐阜県八百津町 有賀 昌司 教育長 「生きる力を育む 徳育教育」 静岡県掛川市 浅井 正人 教育長 研修会 「たくさんの応援があるから夢を追いかけられる自分がある」 大村 朱澄 氏 (ロンドンオリンピック カヌースプリント競技日本代表)</p>	<p>71センター 2クラブ</p>	<p>130人 (30人) 首長部局 責任者2人</p>	<p>6人</p>

近畿	<p>兵庫県 神戸市 11月14日(水)・15日(木)</p> <p>教育長事例発表</p> <p>「生きる力を育む 自然体験活動」 兵庫県香美町 森脇 俊晴 教育長</p> <p>「生きる力を育む 防災・安全教育」 和歌山県串本町 野呂 正人 教育長</p> <p>「生きる力を育む 徳育教育」 兵庫県上郡町 三木 一司 教育長</p> <p>研修会</p> <p>「水を通じて子供につたえたいこと」 木原 珠子 氏(和気スイミングクラブ代表、海人くらぶコーチ)</p>	41センター 4クラブ	75人 (20人)	6人
中国	<p>岡山県 岡山市 11月7日(水)・8日(木)</p> <p>教育長事例発表</p> <p>「生きる力を育む 自然体験活動」 島根県雲南市 土江 博昭 教育長</p> <p>「生きる力を育む 防災・安全教育」 岡山県奈義町 笠木 義孝 教育長</p> <p>「生きる力を育む 徳育教育」 鳥取県伯耆町 後藤 弥 教育長</p> <p>研修会</p> <p>「学校教育とライフセービング」 藤井 正弘氏(日本ライフセービング協会 Junior Education Course Director)</p>	53センター	85人 (22人)	5人
四国	<p>愛媛県 松山市 10月29日(月)・30日(火)</p> <p>教育長事例発表</p> <p>「生きる力を育む 自然体験活動」 愛媛県愛南町 田村 茂雄 教育長</p> <p>「生きる力を育む 防災・安全教育」 徳島県美波町 寺内 康博 教育長</p> <p>「生きる力を育む 徳育教育」 高知県香美市 時久 恵子 教育長</p> <p>研修会</p> <p>「水中安全教育の意義 着衣泳について」(講義)</p> <p>「着衣泳」(実技)</p> <p>椿本 昇三 氏(筑波大学大学院教授)</p>	26センター 2クラブ	59人 (11人)	5人

北九州	<p>長崎県 長崎市 11月21日(水)・22日(木) 教育長事例発表</p> <p>「生きる力を育む 自然体験活動」 佐賀県江北町 赤坂 章 教育長</p> <p>「生きる力を育む 防災・安全教育」 大分県中津市 廣畑 功 教育長</p> <p>「生きる力を育む 徳育教育」 佐賀県みやき町 大坪 春美 教育長</p> <p>研修会 「東日本大震災 災害派遣の経験から感じたスポーツの持つ力」 朝吹 保志氏 (福岡県宮若市体育協会 事務局長)</p>	46センター 6クラブ	71人 (14人)	5人
南九州	<p>熊本県 熊本市 11月21日(水)・22日(木) 教育長事例発表</p> <p>「生きる力を育む 自然体験活動」 鹿児島県与論町 田中 國重 教育長</p> <p>「生きる力を育む 防災・安全教育」 熊本県玉名市 森 義臣 教育長</p> <p>「生きる力を育む 徳育教育」 鹿児島県霧島市 高田 肥文 教育長</p> <p>研修会 「体験を重視した教育手法と『生きる力』」 古瀬 浩史氏 (自然教育研究センター 取締役)</p>	37センター 2クラブ	75人 (15人)	5人
合 計		454センター 22クラブ	801人 (184人) 首長部局 責任者4人	延べ 44人 関東 除く

④全国ブロック連絡協議会総会への参加

海洋センターブロック連絡協議会および海洋センター道府県連絡協議会の活動促進を図るため、全国10ブロック連絡協議会が主催する総会に、財団の役員およびブロック担当者が出席し、財団事業等の説明ほか海洋センター表彰等を行った。

ブロック	開催地・開催日	出席センター・ クラブ数	自治体執行部 出席者数	出席者数	出席 役職員数
北海道	北海道 砂川市 4月27日(金)	36センター 1クラブ	首長 10人 副首長 3人 教育長 12人	63人	4人
東北	福島県 本宮市 4月26日(木)	53センター	首長 4人 教育長 1人	76人	5人
関東	東京都 港区 4月18日(水)	42センター	首長 17人 副首長 5人 教育長 2人	65人	全役職員
北陸	新潟県 胎内市 4月25日(水)	40センター	首長 1人 副首長 1人 教育長 7人	56人	7人
中部	静岡県 掛川市 5月14日(月)	69センター	首長 9人 副首長 8人 教育長 10人	131人	5人
近畿	滋賀県 米原市 5月23日(水)	41センター 1クラブ	首長 2人 副首長 1人 教育長 1人	65人	4人
中国	岡山県 岡山市 5月18日(金)	52センター	首長 6人 副首長 5人 教育長 6人	82人	5人
四国	愛媛県 松山市 5月10日(木)	27センター 2クラブ	首長 8人 副首長 2人 教育長 7人	72人	5人
北九州	福岡県 宮若市 5月23日(水)	39センター	首長 5人 副首長 1人 教育長 2人	62人	3人
南九州	熊本県 熊本市 5月24日(木)	37センター	首長 5人 副首長 5人 教育長 6人	70人	5人
合計		436センター 4クラブ	首長 67人 副首長 31人 教育長 45人	742人	43人

(3) 海洋性レクリエーション団体との協力事業構築のための調査

海洋クラブ対象の会議を開催して意見交換を行うとともに、海洋クラブ指導者の協力により指導プログラムを作成した。

①「第3回 B&G海洋クラブ会議」の開催

海洋クラブの活性化を目的に、海洋クラブの運営・活動などの新たな方向性を検討するための会議を行った。

ア. 時期：平成25年3月16日（土）～17日（日）

イ. 場所：東京都港区虎ノ門 虎ノ門35ビル9F会議室

ウ. 対象：H23～H24年度 新規登録の海洋クラブ

優良な活動または指導を行なう一般海洋クラブ

エ. 人数：7名（7クラブ）

オ. 主な内容：・B&Gプラン及びB&G財団事業紹介

- ・「平成24年度B&G海洋クラブ目標」の成果と連携事業について
- ・事前アンケートに即した意見聴取 及び 事例発表
- ・B&G 新居浜海洋クラブ登録証交付式
- ・財団事業等のご案内
- ・平成25年度 B&G 海洋クラブ目標設定
- ・財団への要望 及び 質疑応答

②海洋クラブ指導者の「派遣指導、指導プログラム作成」

B&G OP 級ヨット大会」の参加者増員と、クラブ関係指導者の指導技術の向上を目的として、「OPヨット教室」へ優良海洋クラブからの指導者派遣を実施した。

期日	平成24年6月2日（土）・ 3日（日）	平成24年6月16日（土）	平成24年6月2日（土）
開催場所	三重県いなべ市大安	岐阜県八百津町	大分県別府市
参加人数	22人	25人	7人
派遣者	丹羽 英夫 氏 (B&Gなごや海洋クラブ 副会長)		濱本 徹夫 氏 (B&G別府海洋クラブ 代表)
OP 東日本 参加	大安海洋クラブ員1人	川辺海洋クラブ員1人 八百津海洋クラブ員1人	別府海洋クラブ員2人

(4) 職員相互の派遣研修

①自治体からの派遣研修制度

財団への理解促進や協力体制の強化を図るため、センター所在市町村から職員を1年間受け入れ、財団事業への参画や「アドバンスト・インストラクター養成研修」をはじめ各種研修を行った。（平成15年度以降、合計32名を受け入れた）

- ・糺谷 哲史（埼玉県 久喜市）
- ・曾根 由多（静岡県 牧之原市）

・鈴木 翔太（福井県 大野市）

②自治体への職員派遣 ※日本財団助成事業

ブロック担当職員について、ブロック内受入自治体においてセンターや担当部署に勤務する研修（2ヵ月研修）、およびブロック内の複数の海洋センターを視察調査する研修（1ヵ月研修）を実施し、自治体や海洋センターの職務の体験・視察を通じて問題点を学ぶほか、人事交流を促進した。（平成17年度以降、延べ21名を派遣した）

派遣職員	日程	勤務地 (2ヵ月研修)	視察数 (1ヵ月研修)
岩井 正人	平成24年11月6日～平成24年11月30日		23センター
原田 文子	平成25年2月1日～平成25年3月31日	鳥取県鳥取市 教育委員会	

2. 調査研究等の活動

(1) 先駆的な事業等に対する支援・協力

B&G財団では、B&Gプランの発展に向けて、海洋センター・海洋クラブや県・ブロック連絡協議会が実施する“特色ある事業”に対し、支援・協力を行っている。平成25年度以降の地域の特色ある事業への支援協力について検討した。

(2) 事業成果の分析・評価

平成23年度の財団事業および海洋センター・海洋クラブの活動状況について分析し検証を行うとともに、全体を取りまとめた『B&G財団活動実績報告書』を作成・発行し、情報の公開を行った。

ア. 時期：平成24年7月1日 発行

イ. 配布先：海洋センター所在市町村長・教育長、地域海洋センター、海洋クラブ、ボートレース関係者ほか

ウ. 仕様：A4版、無線綴じ、156頁（4色118頁、単色38頁）

エ. 部数：2,200部

(3) B&G財団中長期事業計画策定の調査研究

次年度が40周年にあたるB&G財団は、事業の本質的な目的や成果を基本から見直し、公益財団法人として、更なる改善と改革を推進することが求められている。平成24年度は次年度に向けた調査研究のための準備等を行った。

3. 広報活動

(1) マスメディアによる広報

①パブリシティ広報

財団事業および海洋センター・海洋クラブの活動を広く社会へ周知するため、新聞・テ

レビ等へのパブリシティ広報活動を行った。

	事業名	新聞	雑誌	テレビ CATV
1	修繕助成決定書授与式	25		2
2	修繕助成リニューアル式典	12		2
3	舟艇配備式	2		
4	サミット	9	2	1
5	指導者会総会	1	1	
6	教育長会議	2		
7	ブロック総会	3		
8	活性化会議	2		
9	海を守る植樹教育事業	14		3
10	臨海副都心水辺の安全教室	3		1
11	体験セミナー	2		
12	体験クルーズ	2		
13	水に賢い子どもを育む年間型活動プログラム	6		1
14	OP 級ヨット大会（西日本大会）	1		
15	OP 級ヨット大会（東日本大会）	1		
16	全国少年少女カヌー大会	2		2
17	全国ジュニア水泳大会	1		
18	WSP	2		3
19	人材バンク事業	2		
20	転倒・寝たきり予防プログラム	1	1	
21	親子と子のふれあいキャンプ	3		1
22	ドリームキャンプ	5		
23	サマーチャレンジ	3		
24	海に叫びたい言葉アンケート（結果）	4		1
25	海に叫びたい言葉アンケート（募集）	9	1	
26	WSN	17	5	2
	合計	134	10	19

<詳細は別表 5（64 頁）平成 24 年度マスメディアによる広報参照>

(2) ウォーターセーフティー ニッポンと連携した広報

ウォーターセーフティーニッポンが提唱する「水の事故ゼロ運動」の啓発を目的に広報誌のアンドリーニュースにWSNニュース等を掲載した。

(3) 自治体・海洋センター職員「B&G特派員」の活用

海洋センターブロック連絡協議会等の活動内容を積極的に広報するため、「B&G特派員」として 20 名を任命、「CANPAN ブログ」を活用し、198 件の情報発信を行った。

①特派員研修会の開催

B & G 特派員の役割や業務内容、広報活動等について理解を深めるとともに、ブロックの広報リーダーとしてのスキルアップを図るため、研修会を開催した。

ア. 期 日：平成 24 年 6 月 7 日（木）～8 日（金）

イ. 場 所：日本財団会議室（第 3・4）

ウ. 対 象：ブロック連絡協議会から推薦された、B & G 指導員有資格者または海洋センター・海洋クラブの担当者

エ. 人 数：19 人

オ. 内 容：特派員の役割・意義、業務内容、広報活動について、記事の書き方、写真の撮り方、映像の撮影について、ディスカッションほか

カ. 講 師：（敬称略）

講師名	所 属 等	内 容
山田 泰久	日本財団 経営支援グループ 情報コミュニケーションチーム チームリーダー	「SNSを使った情報発信について」
山下 勲	日本写真家協会会員 B & G 広報大賞審査委員	「写真の撮り方」（基礎編・応用編）
市川 和彦	マリンジャーナリスト B & G 財団特約ライター	「記事の書き方」（基礎編・応用編）
千葉 好則	フリー報道カメラマン B & G 財団オフィシャルカメラマン	「映像の撮影について」

②B & G 特派員一覧

	ブロック	都道府県	センター名	特派員氏名
1	北海道	北海道	厚岸町	森下 高
2		北海道	剣淵町	佐藤 聖弥
3	東北	岩手県	盛岡市玉山	鈴木 学
4		福島県	石川町	遠藤 勇喜
5	関東	茨城県	行方市玉造	野原 嘉典
6		栃木県	下野市国分寺	近藤 隆博
7	北陸	石川県	穴水町	和田出 勝則
8		新潟県	新潟市中之口	山田 智生
9	中部	静岡県	掛川市大須賀	河原崎 貴広
10		長野県	長和町和田	坂田 真二

11	近畿	滋賀県	野洲市中主	中野 良博
12		兵庫県	新温泉町浜坂	森田 和人
13	中国	岡山県	井原市美星	田邊 裕章
14		広島県	府中市	大越 利夫
15	四国	愛媛県	愛南町御荘	浜岡 邦之
16		香川県	三木町	筒井 政美
17	北九州	長崎県	佐世保市小佐々	藤田 幸一郎
18		大分県	佐伯市上浦	高橋 和孝
19	南九州	沖縄県	伊江村	万寿 祥久
20		熊本県	湯前町	工藤 陽平

(4) インターネットを活用した情報の発信

①ユーストリームによる動画配信

下記事業について、ユーストリームを活用し、インターネット上でライブ中継を行った。

- ・指導者養成研修 開講式 視聴者数：351件
- ・B&G全国ジュニア水泳競技大会 開会式・決勝戦・閉会式 視聴者数：2,787件
- ・第2回B&G全国指導者会総会 視聴者数：626件

②フォトアルバムの公開

B&G体験セミナーや各種全国大会の活動写真を、参加者サービスの一環として、財団ホームページ上でフォトアルバムとして公開した。

(5) 「B&G広報大賞」の選出と表彰

海洋センターや海洋クラブの活動を、地域住民をはじめ広く社会に周知するため、積極的な広報活動を行った海洋センター、海洋クラブを選出した。

ア. 部門：「テレビの部」「新聞の部」「ホームページの部」「地域広報の部」「B&G特派員の部」の5部門

イ. 審査員：

- 委員長 岸 ユキ (女優、B&G財団評議員)
- 委員 田久保 雅己 (株)舵社常務取締役)
- 委員 中井 一平 (株)読売新聞東京本社 常務取締役)
- 委員 山下 勲 (日本写真家協会 会員)
- 委員 加藤 雅章 (株)ロボット 執行役員)
- 委員 藤川 務 (株)日本レジャーチャンネル 代表取締役社長)
- 委員 小谷 和彦 (株)TBS バラエティ制作センター担当部長 チーフプロデューサー)
- 委員 谷川 真理 (タレント、B&G財団評議員)

委員 広渡 英治 (B & G 財団理事長)

ウ. 結 果:

広報大賞 和歌山県 B & G 和歌浦海洋クラブ

優秀賞

- ・テレビの部：4センター・1クラブ
- ・新聞の部：5センター
- ・ホームページの部：3センター
- ・地域広報の部：2センター
- ・審査員特別賞：2センター
- ・特派員の部：5名

(6) 広報誌「アンドリー NEWS (冊子)」の発行

財団の活動等を広く一般に周知するため、年 2 回発行し、海洋センター・海洋クラブほか関係団体等に配付した。

(7) オリジナルグッズの製作・販売

- ①日本財団と日本オリンピック委員会が実施している「エール FOR 日本」に協賛し、JOC マークの入ったオリジナルグッズ製作とチャリティ販売を行い、その販売利益等を 日本財団に寄付した。

販売グッズ	販売数
ポロシャツ	4,435 枚
Tシャツ	8,956 枚
タ オ ル	8,964 枚
合 計	22,355 枚

- ②海洋センター等からの要望により、B & Gオリジナルグッズを 1,252 個作製し販売した。

【収益事業】

1. 土地賃貸事業

旧東京海洋センターの跡地（江東区深川）を「ホームセンターコーナン」に賃貸し、安定的な賃貸料収入を得た。この収入は当財団の公益目的事業及び管理運営業務等の経費支出に活用した。

別表 1

役 員 名 簿

(平成 25 年 3 月 31 日現在)

役 職	氏 名	現 職
会長	梶 田 功	一般社団法人全国モーターボート競走施行者協議会 会長 (前) 大阪府 箕面市長 (元)
理事長	広 渡 英 治	
常務理事	大 島 康 雄	
〃	古 山 透	
〃	吉 田 哲 朗	
理事	重 由美子	アトランタオリンピック470級ヨット 銀メダリスト
〃	高 良 文 雄	沖縄県 本部町長
〃	中 村 真 衣	株式会社ジェイエスエス スイミングアドバイザー シドニーオリンピック100m背泳ぎ 銀メダリスト
〃	船 越 眞	BOAT RACE振興会 常務理事
〃	山 中 健	兵庫県 芦屋市長
監 事	篠 原 通 夫	篠原会計事務所 公認会計士・税理士
〃	西 本 克 己	株式会社東京ビー・エム・シー 代表取締役社長

(非常勤役員は五十音順)

別表 2

評 議 員 名 簿

(平成 25 年 3 月 31 日現在)

	氏 名	現 職
議長	小 高 幹 雄	BOAT RACE振興会 会長
評議員	遠 藤 容 弘	公益財団法人日本ゲートボール連合 専務理事
〃	岸 ユキ	女優
〃	工 藤 祐 直	B & G 全国サミット 副会長 B & G 全国町村長会議・B & G 全国指導者会 会長 青森県 南部町長
〃	小 峯 力	特定非営利活動法人日本ライフセービング協会 理事長 流通経済大学スポーツ健康科学部 教授
〃	今 義 男	海洋政策研究財団 理事長
〃	谷 川 真 理	タレント 流通経済大学 客員教授
〃	西 嶋 泰 義	大分県 佐伯市長
〃	皆 川 浩 二	一般財団法人日本モーターボート競走会 会長
〃	吉 田 和 夫	B & G 全国サミット・B & G 全国市長会議 会長 新潟県 胎内市長

(五十音順)

別表 3

専 門 委 員 名 簿
(海洋センター施設整備委員)

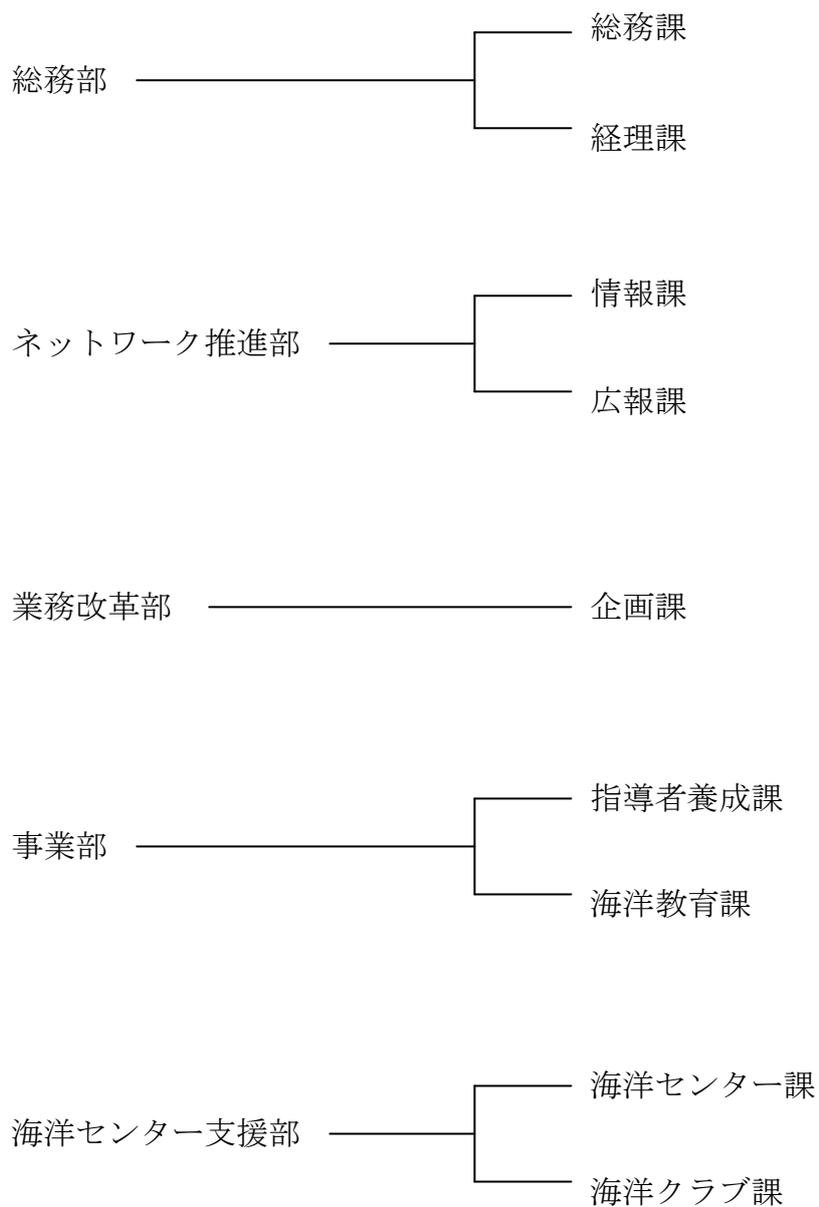
(平成 25 年 3 月 31 日現在)

	氏 名	現 職
委員長	小 池 保 夫	財団法人日本モーターボート競走会 理事長
委員	宇 井 成 一	千葉県 香取市長
〃	大 西 英 輔	オオニシアーキテクト 代表取締役
〃	小 林 元 一	株式会社松田平田設計 大阪事務所 副所長
〃	田久保 雅 己	日本マリンジャーナリスト会議 (MJC) 会長 株式会社舵社 常務取締役
〃	田 畑 誠 一	鹿児島県 いちき串木野市長
〃	広 瀬 秀 貴	BOAT RACE振興会 常務理事

(五十音順)

事務局機構図

平成 25 年 3 月 31 日現在



※財団内にウォーターセーフティー ニッポン事務局を設置

別表 5

平成 24 年度 マスメディアによる広報

	事業名	センター・クラブ名等	媒体名	日付
1	修繕助成 決定書授与式	広島県三原市久井海洋センター	中国新聞	2012/4/5
2		高知県四万十町窪川海洋センター	高知新聞	2012/4/13
3		高知県香美市香北海洋センター	高知新聞	2012/4/16
4		千葉県香取市山田海洋センター	千葉日報	2012/4/22
5		岡山県井原市井原海洋センター	山陽新聞	2012/4/26
6		群馬県玉村町海洋センター	上毛新聞	2012/4/24
7		青森県弘前市海洋センター	陸奥新報	2012/5/2
8		"	東奥日報	2012/5/14
9		北海道古平町海洋センター	北海道新聞	2012/5/14
10		愛媛県今治市吉海 / 愛南町御荘海洋センター	愛媛新聞	2012/5/15
11		愛媛県今治市吉海海洋センター	愛媛朝日テレビ	2012/5/13
12		北海道せたな町海洋センター	北海道新聞	2012/5/18
13		岡山県赤磐市吉井海洋センター	山陽新聞	2012/5/18
14		大阪府千早赤阪村海洋センター	産経新聞	2012/5/22
15		福島県本宮市白沢海洋センター	福島民友	2012/5/25
16		"	海上の友	2012/6/1
17		静岡県川根本町本川根海洋センター	静岡新聞	2012/5/25
18		"	中日新聞	2012/5/29
19		長野県松本市波田海洋センター	市民タイムス	2012/6/2
20		兵庫県香美町香住海洋センター	日本海事新聞	2012/6/8
21		"	神戸新聞	2012/6/12
22		福岡県久留米市三潁海洋センター	朝日新聞	2012/6/5
23		"	久留米日日新聞	2012/6/15
24		"	くーみんテレビ	2012/6/6
25		北海道斜里町海洋センター	読売新聞	2012/6/20
26		"	北海道新聞	2012/6/20
27		千葉県大多喜町海洋センター	千葉日報	2012/6/28
	事業名	センター・クラブ名等	媒体名	日付
1	修繕助成 リニューアル式典	栃木県那須烏山市南那須海洋センター	下野新聞	2012/5/13
2		"	読売新聞	2012/5/15
3		滋賀県野洲市中主海洋センター	京都新聞	2012/6/24
4		徳島県牟岐町海洋センター	読売新聞	2012/7/18
5		福島県本宮市白沢海洋センター	福島民報	2012/7/26

	事業名	センター・クラブ名等	媒体名	日付
6	修繕助成 リニューアル式典	〃	福島民友	2012/7/26
7		〃	読売新聞	2012/7/26
8		高知県四万十町窪川海洋センター	高知新聞	2012/11/19
9		〃	四万十ケーブルテレビ	2012/11/19
10		岡山県井原市井原海洋センター	井原放送	2013/1/5
11		群馬県玉村町海洋センター	上毛新聞	2013/3/5
12		愛南町御荘海洋センター	福井新聞	2013/3/6
13		青森県弘前市海洋センター	陸奥新報	2013/3/24
14	〃	東奥日報	2013/3/27	
	事業名	センター・クラブ名等	媒体名	日付
1	舟艇配備式	B & G 宮崎シーライオン海洋クラブ	宮崎日日新聞	2012/5/27
2		新潟県胎内市中条海洋センター	新潟日報	2012/9/25
	事業名	センター・クラブ名等	媒体名	日付
1	第5回B&G 全国サミット		日本海事新聞	2013/1/29
2			レジャーチャンネル	2013/1/31
3			読売新聞	2013/2/1
4			佐賀新聞	2013/2/1
5			福島民報	2013/2/2
6			伊勢新聞	2013/2/2
7			海上の友	2013/2/11
8			教育家庭新聞	2013/2/18
9			日本海事新聞	2013/3/14
10			教育家庭新聞	2013/3/18
11			週刊レース	2月20日号
12			BOAT RACE Monthly Report	3月号
	事業名	センター・クラブ名等	媒体名	日付
1	第2回B&G		教育家庭新聞	2013/2/18
2	全国指導者会総会	三重県伊賀市大山田海洋センター	伊賀上野ケーブルテレビ	2013/2/20
	事業名	センター・クラブ名等	媒体名	日付
1	第9回B&G		日本教育新聞	2013/2/25
2	教育長会議		教育家庭新聞	2013/3/18
	事業名	センター・クラブ名等	媒体名	日付
1	ブロック総会	東北ブロック	福島民友	2012/5/1
2		〃	福島民報	2012/5/2
3		中部ブロック	静岡新聞	2012/5/15

	事業名	センター・クラブ名等	媒体名	日付
1	活性化会議	東北ブロック	岩手日報	2012/10/30
2		"	盛岡タイムス	2012/11/2
	事業名	センター・クラブ名等	媒体名	日付
1	海を守る植樹教育事業	植樹リーダー研修会	神奈川新聞	2012/5/18
2		"	日本海事新聞	2012/6/20
3		岩手県普代村海洋センター	岩手日報	2012/8/8
4		"	朝日新聞	2012/8/8
5		北海道苫前町海洋センター	日刊留萌	2012/9/26
6		"	北海道新聞	2012/10/1
7		"	羽幌タイムス	2012/10/3
8		愛媛県愛南町御荘海洋センター	愛媛新聞	2012/11/17
9		福井県勝山市海洋センター	日刊県民福井	2012/11/27
10			福井新聞	2012/11/29
11		徳島県徳島市海洋センター	読売新聞	2012/11/26
12		"	徳島新聞	2012/12/18
13		"	四国放送	2012/11/25
14		岡山県美作市作東海洋センター	NHK岡山放送局	2013/3/20
15		"	美作ケーブルテレビ	2013/3/20
16		"	山陰新聞	2013/3/22
17		"	津山朝日新聞	2013/3/27
	事業名	センター・クラブ名等	媒体名	日付
1	臨海副都心 水辺の安全教室	(告知)	朝日新聞	2012/6/29
2		(告知)	読売新聞	2012/7/5
3			電波タイムズ	2012/7/13
4			フジテレビ	2012/7/7
	事業名	センター・クラブ名等	媒体名	日付
1	海洋体験セミナー		沖縄タイムス	2012/8/13
2			琉球新報	2012/8/21
	事業名	センター・クラブ名等	媒体名	日付
1	体験クルーズ	福島県塙町海洋センター	福島民報	2013/3/22
2			産経新聞	2013/3/31

	事業名	センター・クラブ名等	媒体名	日付
1	水に賢い子どもを育む年間型活動プログラム	青森県南部町名川海洋センター	デーリー東北	2012/5/1
2		"	東奥日報	2012/5/5
3		山口県周防大島町海洋センター	読売新聞	2012/7/7
4		北海道厚岸町海洋センター	釧路新聞	2012/7/15
5		高知県津野町東津野海洋センター	高知新聞	2012/9/18
6		新潟県胎内市中条海洋センター	テレビ新潟	2012/9/18
7		愛媛県愛南町御荘海洋センター	愛媛新聞	2012/12/3
8		山口県周防大島町海洋センター	アイ・キャン	2013/1/21
	事業名	センター・クラブ名等	媒体名	日付
1	OP級ヨット大会	(西日本大会)	大分合同新聞	2012/7/19
2		(東日本大会)	中日新聞	2012/7/16
	事業名	センター・クラブ名等	媒体名	日付
1	全国少年少女カヌー大会		山梨日日新聞	2012/7/29
2			富山新聞	2012/8/8
3			山梨放送	2012/7/29
4			CATV河口湖	2012/8/1
	事業名	センター・クラブ名等	媒体名	日付
1	全国ジュニア水泳大会		読売新聞	2012/8/19
	事業名	センター・クラブ名等	媒体名	日付
1	ウォータースポーツプロジェクト	北日本大会	北陸中日新聞	2012/7/30
2			ケーブルテレビななお	2012/8/1
3			石川テレビ	2012/8/9
4		南日本大会	南海日日新聞	2012/8/13
5			ゆいのさとてれび	2012/8/20
	事業名	センター・クラブ名等	媒体名	日付
1	人材バンク事業	岩手県久慈市山形海洋センター	デーリー東北	2012/8/27
2		茨城県北茨城市海洋センター	BONDS	2012/12月号
	事業名	センター・クラブ名等	媒体名	日付
1	転倒・寝たきり	山口県周防大島町海洋センター	朝日新聞	2012/12/28
2	予防プログラム	"	アイ・キャン	2012/12/3

	事業名	センター・クラブ名等	媒体名	日付
1	親と子のふれあい キャンプ	(告知) 秋田県能代市海洋センター	北羽新報	2012/8/2
2		島根県雲南市加茂海洋センター	島根日日新聞	2012/8/10
3		"	うんなん夢ネット	2012/8/10
4		秋田県能代市海洋センター	北羽新報	2012/8/31
	事業名	センター・クラブ名等	媒体名	日付
1	ドリームキャンプ	三重県津市	中日新聞	2012/10/7
2		兵庫県姫路市家島海洋センター	神戸新聞	2012/10/24
3		福岡県穂波海洋クラブ	毎日新聞	2012/11/26
4		"	読売新聞	2012/11/27
5		愛媛県松山海洋クラブ	愛媛新聞	2012/12/3
	事業名	センター・クラブ名等	媒体名	日付
1	サマーチャレンジ	富山県氷見市海洋センター	北日本新聞	2012/11/4
2		"	富山新聞	2012/11/5
3		"	北日本新聞	2012/11/19
	事業名	センター・クラブ名等	媒体名	日付
1	海に叫びたい言葉 アンケート(結果)		岩手日日新聞	2012/7/16
2			紀伊民報	2012/7/20
3			日本海事新聞	2012/7/24
4			海上の友	2012/8/1
5			TBS	2012/9/5
	事業名	センター・クラブ名等	媒体名	日付
1	海に叫びたい言葉 アンケート(募集)		苫小牧民報	2012/6/5
2			日本海事新聞	2012/6/7
3			山口新聞	2012/6/10
4			奈良新聞	2012/6/18
5			島根日日新聞	2012/6/20
6			北海道新聞	2012/6/20
7			海上の友	2012/6/21
8			神奈川新聞	2012/6/21
9			山梨日日新聞	2012/6/22
10			週間レース	7月5日号

	事業名	センター・クラブ名等	媒体名	日付
1	WSN		愛媛新聞	2012/4/7
2			教育家庭新聞	2012/4/16
3			OCEAN LIFE	5月号
4		防災研修会	くーみんテレビ	2012/6/6
5		海洋訓練	静岡第一テレビ	2012/6/12
6			静岡新聞	2012/6/17
7			教育医事新聞	2012/6/25
8			OCEAN LIFE	6月号
9			BOAT CLUB	6月号
10			海上の友	2012/8/1
11			電波タイムズ	2012/8/8
12			OCEAN LIFE	9月号
13			Life Saving	vol.15
14		水の事故ゼロ標語募集	日本海事新聞	2012/12/4
15		水の事故ゼロ標語発表	産経新聞	2013/2/28
16		"	富山新聞	2013/2/28
17		"	北日本新聞	2013/2/28
18		"	デーリー東北	2013/2/28
19		"	東奥日報	2013/2/28
20		"	美幌新聞	2013/3/2
21		"	北海道新聞	2013/3/7
22		"	東奥日報	2013/3/22
23		"	秋田魁新報	2013/3/24
24		"	デーリー東北	2013/3/26
	事業名	センター・クラブ名等	媒体名	日付
1	その他	年頭所感	教育家庭新聞	2013/1/1

前記のとおり相違ありません。

平成25年5月27日

公益財団法人ブルーシー・アンド・グリーンランド財団

会 長 梶 田 功

平成24年度の事業報告書を監査したところ適正かつ正確であることを認めます。

監 事 篠 原 通 夫

監 事 西 本 克 己

